

平成28年10月臨時会会議録

平成28年10月24日 月曜日 午前10時00分開会

渋谷 佐輔 議長 五十嵐 智洋 副議長

出席議員 (16名)

| | | | | | |
|-----|--------|----|-----|--------|----|
| 1番 | 宇津木 正紀 | 議員 | 2番 | 浅野 敏明 | 議員 |
| 3番 | 金子 豊美 | 議員 | 4番 | 内谷 邦彦 | 議員 |
| 5番 | 平 進介 | 議員 | 6番 | 鈴木 富美子 | 議員 |
| 7番 | 渡部 秀樹 | 議員 | 8番 | 今泉 春江 | 議員 |
| 9番 | 梅津 善之 | 議員 | 10番 | 赤間 泰広 | 議員 |
| 11番 | 小関 秀一 | 議員 | 12番 | 五十嵐 智洋 | 議員 |
| 13番 | 蒲生 光男 | 議員 | 14番 | 安部 隆 | 議員 |
| 15番 | 町田 義昭 | 議員 | 16番 | 渋谷 佐輔 | 議員 |

欠席議員 (0名)

説明のため出席した者

| | | | |
|-------|----------|-------|--------|
| 内谷 重治 | 市長 | 遠藤 健司 | 副市長 |
| 平田 裕 | 教育長 | 齋藤 環樹 | 総務参事 |
| 泡渊 栄人 | 地方創生参事 | 松木 幸嗣 | 厚生参事 |
| 谷澤 秀一 | 産業参事 | 青木 邦博 | 建設参事 |
| 横山 賢一 | 教育参事 | 竹田 利弘 | 総合政策課長 |
| 高石 潤一 | 総務課長 | 渡邊 洋男 | 財政課長 |
| 桐生 芳弘 | 公共施設整備課長 | 鈴木 博郎 | 学校教育課長 |
| 川村 直人 | 文化生涯学習課長 | | |

事務局職員出席者

| | | | |
|-------|--------|-------|------|
| 飯澤 常雄 | 議会事務局長 | 小林 克人 | 補佐 |
| 若月 由紀 | 議事調査主査 | 安達 洋司 | 主任技士 |

議事日程

平成28年10月24日 月曜日 午前10時00分開会

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 議案第75号 平成28年度長井市一般会計補正予算第7号

(質疑、討論、表決)

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

開 会

○**渋谷佐輔議長** おはようございます。
ただいまから平成28年第4回長井市議会臨時会を開会いたします。

14番、安部 隆議員。

○**14番 安部 隆議員** 議事進行というように
ことをお願いしたいと思います。

今回のこの臨時会におきまして、きょうの朝
ですけれども、各控室の机の上に、資料として第
一校舎の保存等に関する資料が配付されてお
りました。この資料の件につきましては、これま
での文教常任委員会においても配付されていな
いというようなこともありますので、このこと
について当局の説明を賜りたく、休憩をとっ
ていただいて対処をしていただきたいというふう
にお願いします。

○**渋谷佐輔議長** ただいま提案がございました。
暫時休憩します。

午前10時01分 休憩

午前10時14分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いた
します。

先ほど安部議員から議事進行がございました
件について、議会運営委員会で協議をいたしま
した結果、資料の説明については、市長の提案
説明の後、関係者から説明をいただき、質疑に
入るようになりました。よろしくお願います。

開 議

○**渋谷佐輔議長** これから本日の会議を開きます。
本日の会議に欠席の通告議員は、ございませ
ん。

本日の会議は、配付しております議事日程を
もって進めます。

なお、この日程につきましては、先ほど開か
れました議会運営委員会にお諮りし、内定を見
ておりますので、ご了承をお願いします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○**渋谷佐輔議長** 日程第1、会議録署名議員の指
名であります。会議規則第81条の規定により、
ご指名いたします。

13番 蒲 生 光 男 議員

14番 安 部 隆 議員

15番 町 田 義 昭 議員

以上、3名の方をお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○**渋谷佐輔議長** 次に、日程第2、会期の決定で
あります。

お諮りいたします。本臨時会の会期は、本日
1日といたしたいと思いますが、これにご異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご異議なしと認めます。よって、
そのように決定いたしました。

お諮りいたします。これから上程いたします
議案は、委員会付託を省略し、全員でご審議願
いたいと思いますが、これにご異議ございませ

んか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご異議なしと認めます。よって、そのように決定いたしました。

日程第3 議案第75号 平成28年度長井市一般会計補正予算第7号

○**渋谷佐輔議長** それでは、日程第3、議案第75号 平成28年度長井市一般会計補正予算第7号の1件を議題といたします。

提案者の説明を求めます。

内谷重治市長。

(内谷重治市長登壇)

○**内谷重治市長** おはようございます。議案第75号 平成28年度長井市一般会計補正予算第7号についてご説明申し上げます。

第1条の歳入歳出予算の補正につきましては、予算の総額に1,545万3,000円を追加いたしまして、予算の総額を歳入歳出それぞれ148億9,987万円といたすものでございます。

このたびの補正は、歳出において、長井小学校第一校舎耐震改修等修正設計業務委託料1,543万3,000円を追加し、その財源といたしまして、前年度繰越金を計上いたすものでございます。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 提案者の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

なお、申し合わせにより、委員会付託を省略し、全員による審議の場合、当日提案議案の質疑につきましては、一問一答の方式により行うこととされております。

質疑の時間は、1人当たり答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いい

たします。

質疑の前に提案説明を求めます。

平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** それでは、私のほうから、けさお手元に届けさせていただきました長井小学校第一校舎の保存に係る経緯等についてということで、幾つかの文書を資料として提出させていただきました。このことについてご説明を申し上げたいというふうに思います。

まず、この資料は、これまで長井小学校あるいは教育委員会のほうで、第一校舎の保存にかかわって、どのような経緯があったのかということ、資料をずっと探しまして出てきたものでございます。順に説明をさせていただきます。

まず、資料1でございます。資料1につきましては、昭和60年になりますが、陳情書といたしまして、当時の長井市立長井小学校の校長でありました佐藤格校長さん、それから当時のPTA会長さんでありました梅津利男さん、このお二人の連名によりまして、長井市長宛てにいただいた陳情書でございます。

内容につきましては、長井小学校第一校舎について、下記事項と書いてございますが、裏面になってございます、ぜひ今後とも第一校舎を保存していただきますようにというような内容でございます。大変歴史的な建造物でございますので、何とか保存してくださいと、そういう陳情書でございます。

裏面をごらんいただきたいと思います。この中には、裏面には、ちょうど4行目に2とございまして、幾つかの要望がありました中で、その2番目というふうになってございます。ここに第一校舎の復元保存の構想についてというのがございます。この中で述べられておりますのは、文教都市長井の象徴的存在でありますので、何とか保存の方向でご検討くださるようお願いいたしますと、こういうことでございます。

この陳情書をいただきまして、次の資料2に

なりますけれども、教育委員会のほうで長井小学校第一校舎の保存について検討いたしまして、議決したものがございます。ごらんいただきたいというふうに思います。資料2ですが、これは昭和62年、ですから、今からもう29年前ということになりますけれども、この中で長井小学校第一校舎の保存につきまして基本的にどういう方針でいくのかといったところを教育委員会で検討したものでございます。

その基本方針、記のところでございますが、基本方針の1としまして、長井市立長井小学校第一校舎（木造2階建て）をできる限り長く保存するというので、その理由としまして、下のほうに書いてございますけれども、ちょっと読ませていただきますが、長井小学校第一校舎（木造2階建て）は、昭和8年に旧長井町民の結集によって建築され、以来54年の年月を経て、今も教育施設としての風格をとどめている。特に木造建築としては他に見ることのできない貴重な建築物であり、専門家を初め、多くの市民から保存すべきであるとの意見があります。このため校舎を補修、補強し、耐力度を高め、できる限り長く保存するために提案するものであるというふうになってございますが、これの具体的な中身につきましては、次のページに具体的な「長井小学校第一校舎の保存及び補強補修計画について」ということで書いてございます。

その1番目でございますが、ごらんいただきたいと思えます。第一校舎保存についてということですが、長井市立長井小学校第一校舎は、昭和8年、建設され、次、ちょっと誤植がありますが、以来54年を経ているが、今なおその風格をとどめ、市民や専門家等からすばらしい木造建築物と称賛されていると、今後も長井市の教育財産として、できる限り長く保存していくため、さらに手を加えて教育施設として充実していくべきであるというようなことで、教育委員会として、この原案を可決しているところで

ございます。

続きまして、資料の3をごらんいただきたいと思えます。これに、大変失礼しました、いつの資料かというのはちょっと書いていないんですが、これは、平成18年の調査に基づく専門家の所見でございます。この所見を書かれましたのは、一番下に書いてございますが、神奈川大学の建築史研究室の西 和夫先生でございます。この方はもうお亡くなりになっていらっしゃるんですけども、歴史的建造物の第一人者ということで、平成18年12月の16日だそうですが、調査をしていただいたときの所見でございます。この所見をつけまして、登録有形文化財ということでの申請をしたというふうに記録として残ってございます。

この資料3は大変細かい字で長々書いてありますけれども、ポイントとしましては、下から4行目、現存する木造校舎は全国的に見ても非常に少ないというところ、それから、続きまして、長井小学校第一校舎は昭和60年から平成元年にかけて改修、改築を行いました、外観や内装は新築した当初からはほとんど変わらずに残っている。規模も大きく、意匠もすぐれている。デザインですね、デザインもすぐれている。昭和初期の木造小学校校舎を長井市が今まで大切にしてきたことをうかがうことができ、大変貴重な存在であるというふうに結論づけていただいております。この資料を添付しまして、平成20年の8月8日に申請をいたしまして、平成21年に登録有形文化財ということになったわけでございます。

大変はしょった説明で、しかも突然の資料で大変申しわけありませんでした。以上のような趣旨で、これまで教育委員会としてどういうふうにごこの一校舎を考えてきたかといったところの一つの資料としてお示しさせていただいたところでございました。以上でございます。

○渋谷佐輔議長 けさほど配付がございました資

料について、平田 裕教育長の説明がございました。お含みの上、ご審議願いたいと思います。ご質疑ございませんか。

15番、町田義昭議員。

○15番 町田義昭議員 議長にお伺いしますが、ただいま教育長の説明に対する質疑をやらせてもらってよろしいですか。

○渋谷佐輔議長 どうぞ。

15番、町田義昭議員。

○15番 町田義昭議員 教育長から説明をいただいたわけでありますが、今までずっとこうした保存に関する経過をひもといてみると、一番古いのでこのときから始まったと。そしてその間について、継続的に、あるいは波状的にこの保存に関して市民要望あるいは組織団体要望という経過があったのかなのか、その点を確認したいなと思いますけれども、お願いします。

○渋谷佐輔議長 平田 裕教育長。

○平田 裕教育長 ただいまのご質問についてでございますが、教育委員会としては、資料をずっとひもといてみまして、その間の資料というのをちょっと探せない状況でございました。

ただ、ここにお載せしてないもので、もう1点、最近、平成20年の6月に定例教育委員会を開いておまして、そのときに、この昭和60年のときの陳情書が話題になってございまして、それを受けて、耐震化と文化財保存を一体的に考えて進めていくべきであるというような会議録は1項目残ってございました。

それ以外については、ちょっと探すことができませんでした。

○渋谷佐輔議長 15番、町田義昭議員。

○15番 町田義昭議員 そうしますと、いわゆる市民レベルの議論とか市民レベルの要望、そうしたものの経過等は探せない。探せないということは、なかったという認識でよろしいのではないかなと思いますけれども、市民の皆さ

んは、こうしたことには余り関心を持ってこなかったという認識でよろしいのでしょうか、私はそう思っているんですけども、教育長はどうでしょうか。

○渋谷佐輔議長 平田 裕教育長。

○平田 裕教育長 決して市民レベルで要望がなかったというふうには、私としては捉えてございません。現にPTAの保護者の間からも、私も2年ほど長井小学校の校長をさせていただきましたけれども、そんな中でもこれをどういうふうに保存していけばいいか、みんなで知恵出していかなきゃいけないねというような話題が時々なっておりました。

したがって、必ずしも長井小の第一校舎について、残すことについての市民の要望がなかったということではないというふうに、私としては考えているところでございます。

○渋谷佐輔議長 ほかにございませんか。

14番、安部 隆議員。

○14番 安部 隆議員 教育長にお伺いしますが、この資料の中でも60年から元年にかけて改修、改装をしたというようなことで、この資料の2番目か、3番目には補強、補修についてというようなことで、いろいろその内容的なものが書かれていますが、この補修時のこの改築費用というのは、当時幾らぐらいかかったのかかわからないでしょうか。

○渋谷佐輔議長 平田 裕教育長。

○平田 裕教育長 ただいまの安部議員の質問についてでございますが、具体的に今、手元に数字、残ってございませんので、調べまして、後ほどご提示させていただきたいというふうに思います。

○渋谷佐輔議長 14番、安部 隆議員。

○14番 安部 隆議員 当時も相当な、内容的に見ますと、はりから、それからいろいろ窓枠等々の修理をしたというようなことであります。先ほどあったように、62年からですと、約20何

年ですか、たっておりませけれども、このように、この校舎については、幾ら金かけても、やっぱり年数がたちますと劣化するのかなという感じがしますけれども、今回もこれよりもすばらしい内容の工事を予定されていますが、やはりこの校舎というものは建築以来100年以上たっているわけですが、そういったことを加味しますと、今後こうした中で幾度となくこういった修理、修繕がかかるものではないかなというふうに思いますが、その辺はどのように思われ、考えられていますか、お尋ねします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 議員おっしゃるとおり、当然、修理等々につきましては定期的にやっていく必要があるだろうというふうに思います。当然それなりのお金もかかるだろうというふうに思います。

ただ、やはりこういう歴史的建造物、県内でも本当に珍しい、全国的に珍しい建造物を長井のシンボルとして何とか残していきたいというのは、私個人としてはもちろんですが、教育委員会として強く願っているところでございますので、その定期的な維持管理、メンテナンスに係る費用等については、それはかかっていくのかなというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** この資料をけさいただいたわけなんですけれども、これは、こういう資料があったっていうのは、いつわかったんですか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** ただいまのご質問についてでございますが、資料があったということについては、薄々はうろ覚えで、私は、初め、教育参事、当然課長等々あったわけなんですけれども、具

体的に今回の第一校舎にかかわる補正ということを提案するに当たり、もう一回きちっと洗い出してみる必要があるんだろうということで、大変、本来はもっともっと早目に文教常任委員会等でご提示申し上げるべき資料であったというふうに反省しておりますが、今回の提案に絡んでということで、教育委員会事務局のほうで調べ直した、そのポイントとなる部分を今回お示しさせていただいたということでございます。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** 時系列的な話を私、聞いているんですけど。けさ資料があったんですけど、きのうですか、見つかったのは、いつですかっていう話なんですけど。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** きのうではありません。その前から、この第一校舎の問題について補正予算を提案するというふうになりまして、その後、第一校舎について、教育委員会としての考え方というのをある程度しっかりしとかなきゃいけないと、もちろんですけども、そういうことで調べて、そうですね、資料自体は金曜日あたりまでにまとめ上げたところですけども、途中土日ということで、けさ皆様のお手元ということになってしまったわけです。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** やっぱり、きょうはこの臨時会はこのことについて質疑をする予定になっているわけなんですよ。そうしますと、当然、議論の過程の中でそういうことが出てくることは想定できるはずだと思うんですよ、ですからこそ調べたと思うんですが、そういう資料が出てきた、だとすれば、やはりいち早く、この所管の委員長にこういう資料があつて、発見されたんですけど、どうしたらいいでしょうかというような、やっぱり一言あつてよろしいんじゃないかと思うんですよ。そういう細かいことの気配りが大事なんじゃないかなと私は思

うんですよ。

私もすばらしい施設だとは思いますが、思うんですけど、全体的にこの校舎の扱いをどうしたらいいのか、例えば、保存する方法論について、非常に迷っているんですね、まだ。まだ議案に対してどうしたらいいかっていうのは、私はよくまだ整理がついておりません。これからいろんな方の質疑あると思うんですけども、それを聞いて判断しなきゃいけないのかなというふうに思っていますが、非常に大事な、微妙な、取り壊すべきだなんていう考えはもちろん持っていませんけれども、かといって、幾らでもかけてもいいつつう話でもないでしょうし、片方では、職員室なんかプレハブでやっているというようなこともあるし、これからの生徒数の推移どうなっていくのか、校舎の、学校の再編などもあるのじゃないかなどいろいろ考えますと、こういうやり方でいいのかという判断に迷いもあるわけなんですよ。

ですので、それはちょっと余計なことなんですけど、こういう資料が出たという段階で、当然あり得ることだと思いますので、いち早く所管の委員長と相談をして、議長と相談して、その対処の仕方を決めていただくように、これからのについてはお願いしておきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 本当におわび申し上げたいというのは、こういうけさの資料配付になってしまったことを改めておわび申し上げたいというふうに思います。

おっしゃるとおり、所管の委員長なり議長さんなりに整理ができた段階で申し上げるべきであったというふうに考えてございます。大変失礼いたしました。

○**渋谷佐輔議長** そのほかございませんか。

3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** きょうの資料なんですけども、教育長にお尋ねします。

大分古い資料なわけで、その後の資料は先ほど見つからないということだったわけですが、長井市の教育振興計画、この中で、いろんな教育委員はもとより社会教育委員、各地区公民館、スポーツ振興審議会、学校関係者など多くの方々に議論をいただいたという文章が載っております。

それで、この27ページに、長井小学校第一校舎について、校舎は、第二校舎の改築終了後、市民の文教活動と郷土資料展示棟として整備しますというふうな文章が載っておるわけなんです。ですから、当時のこの計画をつくるときの資料等があれば、そういったものも含めてご説明いただければ、もっとよりよい、こういう何ていうかな、昔の資料だけじゃなくて、最近の状況もわかるんじゃないかなと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** ただいま金子議員からご指摘いただいたことにつきまして、最近のものが少ないということで、そのとおりでなというふうに思っております。一校舎の今後のあり方について、さまざまな場で多分検討はなされてきたというふうには思うんですが、そのことについての資料、十分に添付できずに申しわけなく思っているところでございます。

先ほど若干申し上げましたが、平成20年のその登録有形文化財に申請するに当たっては、大分その辺の議論はされたというふうに聞いてるところでございますが、具体的なその資料のここにこう書いてあるというところがなかなか見つけられずにいたもんですから、大変申しわけなく思っているところでございます。

金子議員おっしゃるとおり、その振興計画の策定の過程での議事、意見なり、そういうものが必ずあったはずだというふうに思っておりますが、なかなか見つけられない状況で、大変申しわけなく思っているところでございます。

以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** きょう配付された資料に関する教育長にお尋ねをしたいというふうに思います。

今まで各議員から資料についての質問があったわけですが、私は、昭和60年代、こういう議論があって、また文化財としての価値については、市民誰しも、その保存なりも含めて大事な施設だというふうなことについては異論がないというふうに思います。ことしも文化財の調査会の中でもそれは再確認はされたということで、長井小学校の第一校舎の利活用がスタートしたんだべなというふうに思いますけれども、今回のその提案されている部分については、学校施設として利活用するというふうなことではなくて、方向が変わってぐということについての教育委員会としての調査、議論、そして結論はどういうふうに行われたのか、その辺、教育長から説明をいただければなというふうに思うんですが。

つまり、2年前から第一校舎はどうするのだ、職員室どうするのだという議論を議会でもしてきました。そういう流れがあって、今回は大きなその方向が変わると、学校施設という立場を超えるというふうなことでありますので、教育委員会でも大分そこについては議論されたのだろうなというふうに思うんですが、そのところについては説明をいただけますか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** ただいま小関議員からご質問いただいた件につきましては、たしか6月議会のほうでも話題になったかと思えます。

教育委員会のほうとしましては、第一校舎を学校としてではなくて、ある意味、生涯学習施設といいますか、学校教育ではない教育施設の一つとして、ある意味、長井小学校から切り離すということでの議論をしたというふうに、私としては理解しているところでございます。

具体的な教育委員会での中身については、十分今、私自身が手元に持っているわけではございませんけれども、前加藤教育長からの引き継ぎによりますと、教育委員会として、この第一校舎を保存しつつ、しかし、さまざまな免震、それから耐震、そういうことを考えたときに、非常に市への負担が重くなるということから、第一校舎をこれまでと同じような校舎として使うこと、教育委員会として、それは、今後そこは校舎として使用しないというふうに教育委員会の定例会の中で話をしたんだというふうに引き継ぎをしているところでございます。

したがいまして、当然教育委員会の中でも議論があって、そこを学校教育以外のものとして使用する方向でいくということに決めたというふうに理解してございます。

○**渋谷佐輔議長** そのほかございませんか。

15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** 教育長のお話で、学校教育以外に使用していくということを教育委員会の中で決定したということでありましてけれども、それはいつの時点なんでしょうか。何年何月、わかりますか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 済みません、ただいまのご質問に対してですが、即答できなくて申しわけないというふうに思います。定例の教育委員会の中でというふうには聞いておりましたが、いつの定例教育委員会かということにつきましては、きちんと調べましてご回答申し上げたいというふうに思います。

それから、今に関係してでございますが、平成28年の3月10日の文教常任委員会の協議会の資料として示させていただいたものの中に、長井小学校全体構想検討委員会ということで、その検討委員会の中で、第一校舎は学校として……。

失礼しました。もう一回、言い直します。長

井小学校将来構想検討委員会ということで、2つの検討委員会を設置して検討をしていただきました。その中でも議論をされたということをつけ加えさせていただきたいというふうに思います。

なお、教育委員会の資料につきましては、いつの教育委員会ですというところにつきましては、調べましてご回答させていただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

内谷重治市長、発言を許します。

○**内谷重治市長** ただいまの町田議員のご質問でございますが、教育長がちょうどことしの7月からかわられたということで、以前の経過につきましては承知されてないということもございしますので、私のほうに答弁は求められておりませんが、許可を得て発言をさせていただきたいというふうに思います。

昨年度、27年度の補正予算に、実は、長井小学校の第一校舎の耐震、免震の申請をいたしまして、補正予算をつけていただくことができました。これは国のほうでございますけれども、その結果がわかったのが3月でございます、その際に、大規模改修も含めて、私どもといたしましては、総額約6億2,000万円ほどの工事費に対して、3分の1の2億円程度を支援していただけるものというふうに考えて、文部科学省等々に働きかけてはいたところでございますが、幸い補正は予算としては認めていただきました。しかしながら、なかなか補助単価が考え方が違いまして、結果として、直接の補助金が2,300万円程度、その後の交付税措置等も含めましても、補正債ということも含めましても6,000万円程度の支援しか見込めないということから、全体の1割程度でございました。

そこで、当時の教育長と相談いたしまして、教育委員会の中でもいろいろ議論いただきながら、最終的には負担が大き過ぎるということで、

学校施設としての整備を断念せざるを得なかったというのがことしの春の段階でございます。

私のほうからは以上でございます。よろしくお願いたします。

○**渋谷佐輔議長** そのほかございませんか。

それでは、けさほどの資料の説明について、審議を閉めさせていただきまして、提案ございました一般会計補正予算について質疑を行います。

ご質疑ございませんか。

7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 私自身としては、きょうの先ほどの資料の話もありましたが、私がちょうど小学校から中学校に上がったころの、すぐ昔から議論されてきたお話で、ずっとその間もいろんな議論がなされた中で今に至っているというのは十分理解しております。私も、残していくということに関しては、賛成ではありません。しかし、これからのどのようにという方法論も、議会でも煮詰めていかねばいけない時期に来ているんだと思っております。

そこで、まず着目しているところが、予算的に、当初当局から説明いただいた金額からは少しずつ上がってきているというところは、資料をご提出いただいた当局の方々もご存じだと思います。少しその辺について、市長から説明をいただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。ただいま渡部議員からございましたように、当初は、学校施設として活用する際には、6億2,000万円余というようなことでお示しをしたところでございました。これは、きちんと実施設計を組んでおる段階でございますので、これはほぼその金額で済ませることができたわけでございますが、今回7億8,000万円近くというようなことで1億5,000万円ほど金額が上がったということにつきましては、今度は学校施設ではなく、それ

以外の用途で使うと。

したがって、1階に例えば展示施設とか、あるいはそこに商業的なものとしてブックカフェ、あるいはレストランとか、そういったものを入れる。あるいは2階は、今どういうふうな使い方をするかは、ようやく発注して、市民の皆様のご意向も含めながら、さまざまな各界の皆様のご意見をいただきながらたたき台をつくるわけですが、それにしても全く学校ではない施設として使いますので、特に2階については、いわゆるキャリア教育ということでの考え方であります。

そうしますと、例えば、スプリンクラーが必要だ。これは木造ではございますが、不特定多数の人が集まるということでスプリンクラー。あるいは、飲食なども考えますと、防火戸とか、そういった学校には今まで必要とされていなかった部分が必要とされることから、全体的な金額が用途変更ということで、残念ながらプラスになってしまったというふうに考えております。

なお、今回の概算の予算として7億七、八千万円を見ているわけですが、2階部分のキャリア教育のところについては、私どもで直営ということではなくて、あくまでも民間企業を募って、いろいろ運営していただきます。その際には、民間施設のほうで整備する部分をこれには含めてございません。したがって、基本的に耐震、免震と大規模改修、あと2階の部分については、その用途に基づいて、この民間事業者が、どれぐらいの経費になるかわかりませんが、その部分について負担して行うということになるかと考えているところでございます。

○**洪谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 市長、答弁ありがとうございます。

また市長にお聞きいたしますが、この長井小学校の総合的な整備について、先ほど小関議員

からもありましたが、どうでしょう、まだまだ煮詰め方が足りないのではないかということも議員間でも少し話ししているところでもあります。

特に管理棟、職員室ですね、この職員室についても、第一校舎から出て、今、仮設ではありますが、実際新しくする管理棟ですか、その予算が幾らぐらいかかって、これから第三校舎、第二校舎についても少しずつ修繕して、あるべき姿でありますか、教育等々をすり合わせながら、こうあるべきだという形へとこれから少しずつ議論を重ねてつくり上げていくのだと思いますが、そういった方向性を踏まえて、幾らぐらい概算でこれからかかっていくのか。特に、新設するであろう管理棟について、予算的な面も含めて、おわかりになる範囲で市長にお聞きしたいと思います。

○**洪谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。先ほど教育委員会のほうから提出させていただいた資料の議論の中でもございましたけれども、長井小学校の存在と、あと今後の統廃合ということも考えると、なかなか難しい課題ではあるというようなご意見などもございましたけれども、ちょっと私ども困惑しておりますのは、国の文部科学省の学校施設に対する、あるいは予算措置に対する考え方が少しずつ変化してきているというのが、この5年間ぐらいで私個人として考えております。

それは、以前は、例えば古い校舎については、築40年、50年であれば改築、新築というのが、これは制度上きちんと認められておったんですが、今度は学校施設についても長寿命化をなさいと、最終的には70年まで使うのだというような基本的な方針が示されたところでございます。

したがって、ことしは今回の補正予算、こちらについては、少し私どもは市町村のそう

いう整備に対する考え方を認めていただいて予算をつけていただきましたけれども、今までは、耐震以外には新築、改築は、統廃合を除いてはほとんど認めていただけなかったと。したがって、当初教育委員会と今後の学校施設の整備を検討した際には、長井小学校以外のほかの5つの小学校については、木造校舎を全て取り壊して、鉄筋コンクリートの建物にしているわけです。一番古かったのが致芳小、西根小、そして最近では、平成に入ってから伊佐沢小を改築しているわけです。

ところが、長井小学校だけは木造校舎を残しているということもあって、第二校舎、第三校舎とも昭和40年代の建物でございました。したがって、私どもは、判断といたしまして、第二校舎、第三校舎を大規模改修と耐震化をして、10年から20年を使って、その後に、やはり50年を経過したということから、あわせて新築といいますか、改築ですよ、第二校舎、第三校舎を取り壊して新しい校舎にしよう。その際に、管理棟、昇降口も含めて、いい形で小学校と体育館とつなぐということで考えておったんですが、それが第二校舎、第三校舎が耐震と大規模改修して20年たってもだめだと、さらに長寿命化でやりなさいというような方針になったというふうに私どもは推測しております。

したがって、残された職員室、今回第一校舎から外に出したわけですから、そうしますと、これはいずれ、10年も20年もプレハブでということにはいかないだろうと。したがって、ほかの小学校のバランス的なこと、子供たちの教育環境やら安全性から鑑みますと、できるだけ早い時期に、やはり渡部議員おっしゃるように、管理棟と昇降口の部分も考えていかなきゃいけないと。

その際の私どもの考え方と見積もりでございしますが、当初はお金をかけないで1億円、2億円以内ぐらいでできないかということで学校側

と教育委員会側と協議してきたところでございますが、これがなかなかそういった金額ではできないと。したがって、金額がひとり歩きしてしまうと非常にまずいのですが、学校側の現場の先生方からのご意見やら校長先生からのご意見をいただきますと、最低でも、やはり昇降口も直しますと、4億円から5億円近い投資が必要なかなと見ております。それをさらに最大限生かせば、もっとかかるかもしれません。したがって、これらについては、実際のところ、第一校舎を今回の議会からもしお認めいただくとしても、ここの負担というのは3億5,000万円から4億円近い市の負担があるわけです、全体事業費が8億円近い中で。

したがって、管理棟に余り金額をかけられるような状況じゃないことから、その辺は先生方やら、あるいは議会からいただいたご意見などをもとに、再度慎重に検討しながら、できるだけお金をかけずにやっていかざるを得ないんじゃないかと、そのように考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 市長、なかなか苦しい答弁ありがとうございました。

現況、現状としまして、やはり、新しく管理棟を建てていくということはお金がかかるという、大分予算もかかるということがわかってくるわけですが、私も少し金額を聞いて、4億円から5億円という額を実際聞いてしまいますと、総合的な、こうしたらこのぐらいお金がかかるというチャート式で何パターンかつくっていかないと、そして、つくったものもいずれ修繕かかっていくと、何年間後に幾らかかるという方式で、よりお金をかけずになるべく使いやすくという、そのベターなところを選んでいく。ベストは選ぶと予算かかり過ぎるということかと思うんですけども、どっちを上げればど

っち立たず、てんびんの理論になってくると思いますが、こういった予算が提示をされている中で、もう少し早くに議論すべきことだったかと思いますが、第一校舎を免震化工事して、多少直すところも出てくるでしょうが、向こう10年、15年直した後に、再び管理棟、職員室として使ったらいいんじゃないかなというの、実際考えねばならないんじゃないかなと思います。

いずれ管理棟に第一校舎を、もちろん単費ですよね、国からの補助はないと。ただ、金額を積み上げてきた場合に、同じような金額に到達するのではないのかなと、補助をいただいて、今回その他の施設として使っていくよと。私も大体半分、賛成しています、あらかた賛成の位置にいます。しかし、金額という面を踏まえていくと、ちょっとこっちにもかかる、こっちにもかかる、でも、両方大事だ。わかります。ただし、その職員室として使っていくことも、あの建物を、私がちょうど長井小学校を卒業した年の11月の20日に提示された資料にあるように、すばらしい施設だと、残すことは十分可能かと思えます。

この議場というのは、議論するために集まっている場所でもありますので、あえて戻る話になりますが、させていただきたいと思えます。

実際、私が学校の、小学校でもPTAとしてお仕事をさせていただいておりますけども、多くの方や話しすれば、100%に近い方が、一般の役員でない親御さんたちが……。

○**渋谷佐輔議長** 渡部議員に申し上げます。論点を整理して質問をお願いします。

○**7番 渡部秀樹議員** はい。

学校施設というところは聖域ですね。先生方にとっても教育という聖域に、守られるべき場所に外部の方が入ってくるということは、物すごく怖いんだというお話を聞いております。この件について、市長、どうお考えですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 渡部議員がおっしゃることは、よく私も理解できます。

まず、第一校舎については、学校として使うことは諦めたわけです。それは、補正は受けませんということで一回お示ししていますので、まず、整備手法としては、学校の整備としては、あの校舎は残せないということであります。

したがいまして、まずは今回、国の地方創生の推進交付金を活用させていただいて、耐震、免震、大規模改修等を行った場合、まず当面は、学校としては使えないということであります。当然教育委員会としても学校施設から切り離して、あそこは教育施設の一つではありますけれども、また違った使い道ということになります。

したがいまして、保護者の皆さんが、すぐそばに不特定多数の人たちが入る施設があるというのが、学校敷地内でございますので、これは不安がおありになるのは当然でございます、管理棟をそういった意味では、第一校舎と、第二校舎、第三校舎のちょうど、何というんでしょうか、管理しやすい、しやすい場所につくっていく必要があるんだろうというふうに考えておまして、したがいまして、今回は、議論としては表には出させていただいてはいないんですが、やっぱり管理棟をどうするかということも、今回の第一校舎のさまざまな整備には、切っては切れないものだと思っております。

その際、実は、ちょっと答弁が長くなって恐縮でございますが、登録有形文化財としての資料を教育委員会のほうで出していたんですが、それが最後なんです、ことしの3月にそういった国の補正の金額を示された際、これは学校として使えないというふうに教育委員会と相談して、私、判断して、小学校の歴代のPTAの方々に、10数名に役員の方、お願いしてお集まりいただいて、状況を説明しました。今後どうしましょうかということで説明したときに、やはり、慈愛の森も含めて、長井小学校第

一校舎ってというのは長井の教育のシンボルなので、これは残すべきだということで、もう皆さんそういう声でございました。

一方で、やはり管理棟については、きちんと配慮してほしいということがございました。

また、同じく別な会議で歴代の校長先生方をお願いしてお集まりいただいて、説明をしてご意見を伺いました。やはり同じように、第一校舎はぜひ何とか残してほしいと。これをなくすと、取り壊すということになったら、これは大変な反発が起きるんじゃないかと、だから残すべきであると。

同時に、やはりPTAの役員の皆様と同じように、一方で、子供たちのことを考えて、しっかりと管理棟も整備すべきだと。登校、下校の様子がきちっとわかったり、不審者が中に入らないような、そんな管理をできる場所にというようなご指摘もいただいたところでございますので、ぜひ、まずは第一校舎を何とか残すということで、このたびのやはり制度を活用するか残す道はないと考えておりますので、そして、その後に管理棟について皆様と議論しながら、どのぐらいの規模で。これは、やっぱり現場の先生の声は重視しなきゃいけないんですが、私どもの予算的などころもご理解いただいて、結局、管理棟については、全て自前になるわけですね、補助対象になりませんので、4億円、5億円というのは自前のお金になるということでございますので、その辺なんかは慎重にしていかなきゃいけないと。

なお、一旦その推進交付金を使って整備をした第一校舎、これをまた学校施設として戻すということは、不可能ではないとは思いますが、ある程度の期間を推進交付金で整備したわけですから、時間的な余裕が必要だろうというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** 文化財登録になって好

ましい反面、教育施設としての使用が不可能になったということで、管理棟をつくるのに4億円から5億円かかるということになるわけなんですけども、総合政策課長の資料の中に、指定管理者、ランニングコスト、4ページに、いつまでも行政がランニングコストを支援することにならないようなふうを書いてあるわけなんですけれども、こんななかなか難しいのではないかなと思うんですけども。大体どの程度これが要することになるのかなと、まずね。

その前にですが、こういうことで事業を推進して行って、教育施設として使いたいということになれば、補助金を返還するということになるのかなんですけども、そうしますと、もとい、文化財の登録ということなので免震工事ですよ、教育施設として使うということになれば耐震工事でいいわけですよ。その辺どうなんですか。

私、単純に結論から言いますと、耐震工事をして、教育施設として使って、補助金はもらわずに管理棟、いわゆる職員室、として使ったほうがいいのでほんねがというふうにずっと思っているわけなんです。だから、結局、補助金をもらうということは、それにひもがつくわけですから制約が出るってということなんですけども、かといって、これは一般の人がどんどんどんどん来て、ランニングコストを行政が支援しなくても間に合うような利益が出るなんて、ちょっと私は想像できないので、だとすれば、常時使えるような使い方を。

だから、さっき方法と言ったんですが、それはそういう意味でね。それはもう一回できないのかという。またここはずっとそういうのが残っているんだよね。

済みません、最初の議論になってしまうわけなんです、市長。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。確かに学校

施設、学校として使う場合は、I s 値っていいですか、耐震に対するI s 値っていうのが1.1ぐらい要すると。そうしますと、主に耐震って筋交いなど、ビル、よくありますよね。あと中もいろいろ補強しなきゃいけないんですけども、そういったもので木造校舎はちょっと難しいと。なおかつ登録有形文化財ですから、外観を変えてはいけないということでございますので、したがって、免震ということと内部での耐震と両方合わせた工事が必要だということなので6億2,000万円ぐらいだったんですね。それをまず1割程度しか見込めないの諦めたわけで、今回は、それを今度、学校施設から外せば、もうちょっと耐震度、要らないんじゃないかというふうに私も考えて、どうなんだと聞いたところ、やはり、公共が絡んだ施設というものについては同じような考え方でいかにざるを得ないということで、したがって、6億2,000万円というのがどうしてもかかって、そこにプラス、今度はいろんな人が入ることから、あとは中で飲食などもしないと利益を上げられませんので、そうしますと、プラス1億5,000万円ぐらいまたかかってしまうということでございます。

職員室だけ使うということで、子供たちは入れないということもあるんでしょうけども、残念ながら、職員室っていうのは学校施設の一部ですので、やっぱり学校に絡んだものをあそこの第一校舎、今回推進交付金で使って整備するっていうのはだめだという判断でございます。

先ほど渡部議員あったことについては、例えば、推進交付金を使って、20年ぐらい別な使い方をしていただくと、20年後にそろそろいいかということで用途変更して、じゃあまた職員室で使うと、子供たちも入れるようにするということが可能なんではないかと。ただし、期間がある程度要するなというお話をしたところでございます。

ちょっと私の答弁が答えになっていたかどうか

かですが、そういうふうに考えておりますので、今回は、あそこは一旦は学校とは全く無縁の施設ということで、ただし、子供たちがキャリア教育を学べる場にして、教育施設としては使いたいと考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** こんなことを聞いても、竹田課長も答弁に困るんだと思いますけども、ランニングコストってどのぐらいかかるっていうふうに試算されているんですか。試算はあるんですか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。この10月14日に今後の活用についてプロポーザルを行いまして、三菱総合研究所が今回受託をして、市民の方々や、あと参入を希望する業者からサウンディング調査ということで、市場から意見を聞くというような調査をやっていきますが、例えば通常一般的に、先ほども議員の方からありますように、木造校舎を通常維持していく分には、やはりある程度のお金は、学校として維持していくにしても、今回目的としてのキャリア教育と学びの施設という取り組みも、当然ランニングコストはかかってくると思います。

あとそのほかに、今までは学校として使っていて、光熱水費とか維持管理費もかかっていたわけですけども、今回学びの場にするということで想定しているところにつきましては、やはり、これまで以上に、例えば光熱水費とか、そうした経費がかかってくると思いますが、できる限り、いわゆる稼ぐということが今回の交付金の趣旨でもございますので、全部のものを賄うのは無理だと思いますが、やはり公益性の高い部分、例えばギャラリー等とかそういったところについては、ある程度、指定管理の中等をちょっと想定しながら維持管理をしていき、あとキャリア教育等の部分については、あとブックカフェ等の部分については、行政から支援をするこ

となく、民間企業でそこは運営していただきたというふうを考えております。

それで、今のところ試算というか、最初の6月で申請しました推進交付金のほうで試算したところ、その中で、最初の申請につきましては、いわゆる内装だけの補助をしていきたいということで国のほうに申請したわけですが、国のほうの事務担当者のほうから、やはりそれでは、最初のうちは、ある程度の支援をしなければ無理だろうということでも、アドバイスを受けておりますので、まず、5年間の中では、指定管理等で国から枠が5年間で私のほうで2億円ということで、先示させていただきました資料でもありますが、その範囲内で何とかやっていて、その後もできる限り市の負担を少なくするようなことで調査、事業を進めてまいりたいと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** ちょっと5年間で2億円っていうことは、年間4,000万円ぐらいは見込まなければいけないと、こういうことですか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えします。先日お配りしました資料の10ページのところで書いてございますが、その2億円、ちょっと今、誤解を招く発言をして大変申しわけございませんでした。

10ページの下のほうに地方創生推進交付金ソフト事業を中心ということ、28年度に1,500万円の調査事業を行います。あと29年度に1,000万円ということで、事業主体の形成、市民との合意形成と、いわゆる深掘りの合意形成等をいたします。それで、30年度から32年度にかけて、一応この申請の段階で1億8,000万円ですべての整備補助ということで、国の支援を受けながら補助をしていただくということで主体に考えておりましたが、この30年度から32年度につきましては、この範囲内で指

定管理もちょっと考えながらやっていきたいと思っております。

それで、2億円のうち市の負担は、国から国庫補助金と交付税等ございますので、一般財源ベースでは6,000万円程度というふうになっております。

○**渋谷佐輔議長** よろしいですか。

13番、蒲生光男議員。

○**13番 蒲生光男議員** これは、まだ確たるものじゃありませんので、このぐらいでやっていきたいという構想だと思うんですけども、こういうふうな使われ方をしている事例というのは、ほかにあるんでしょうか。今回、長井市でこういうふうにしていきたいということなんですけども、例えば、文化財登録をして、免震工事をして、全く同じケースなのかどうなのかも含めてなんですが、そういう事例はありますか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。日本各地で今、廃校になった校舎がよくございますが、長井小学校ほど大きい規模ではないものですから、小さい1,000平米以下の規模ですと、例えば、カフェをやったりレストランをやったり、あと一部、ホテルのような、ちょっと宿泊のようなケースで廃校利用っていうことで収益を上げて、民間でやっているところは事例としてございますが、やはり、免震工事をしてという事例は、ほかの事例もちょっと調査をしながら進めていきたいというふう考えております。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 何点かご質問したいというふうに思います。

最初に、ことしの6月定例会の最終日で提案された補正の細部質疑の中で、私、市長にお伺いしたときの答弁で、私の受け取り方がうまくないところがあったのかどうか、その辺ちょっと

と確認したいというふうに思うんですが。

市長の答弁で、今回の利用方法についての調査費ということで1,500万円計上させてもらったんですが、それまで、まず利用方法を考えながら、市民の皆様からご理解をいただいたら、あわせて耐震・免震化の大規模改修の工事をしようというのが今回の考え方ですというふうに答弁されているんです。

この答弁で、この6月補正の委託料については、第一校舎の利用方法と活用方法の調査とともに市民アンケート等をとるなどして、耐震・免震化工事を含めた、第一校舎を残すことについて、市民の理解を得るための調査を含めた調査費委託料と私ちょっと理解したんですが、再度この6月補正とこのたびの補正とのかかわりについて、市長にお伺いしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。6月議会のときに、私のほうで誤解を招くような答弁だったということで、ちょっと反省しなければならぬんですが、私個人といたしましては、そのときの発言としてはほぼそのとおりなんですが、ただ、第一校舎を残すか残さないか、それで市民の皆様からご判断をいただくというようなことの意味合いではなく考えています。

私は、教育委員会のほうでけさ資料を出させていただいた内容については、きちっとしたデータは、データといいますか、いついつこういような話があったということではないんですけども、当時、その昭和60年、六十一、二年のころのそういう話っていうのは、議会でも話題になりましたし、当時の斎藤市長と鈴木泰助教育長、鈴木松市教育委員長、話っていうのは私も職員にも聞こえてまいりましたし、これは残さなきゃいけないということで判断してずっと守ってきた施設なんで、これは何とか残すというのが私の使命だろうというふうに思ってお

りました。

学校として使うことは、これは難しいということが、残念ながら補正予算が1割ぐらいしかつかなかったっていうことですね、補助金ですね、諦めたんですが、これを別な用途としてちゃんと使えるというようなもくろみが立てば、これは整備の手法がまた出てくるだろうと思っておったんです。

それで、そのときはまだ今回のようなハードの推進交付金って、国のほうで示されていなかったんです。ハードはだめだと、あくまでもソフト中心だというふうに言われておったので、この使い道を皆様からご検討いただいて、これはすごいなというふうな利用方法が決定すれば、耐震とか免震のその道を開けるだろうと。そのときに耐震、免震するかを相談しなきゃいけないと、市民に働きかけしてご理解をいただかなきゃいけないというふうに思っておったんですが、それがこのたび国のほうから特別枠で900億円という拠点整備推進交付金ですか、ちょっと正式な名称じゃなくて恐縮なんですけど、それが示されまして、その要綱を見せていただいたときに、特記事項などもありました。それは、私も積極的に内閣府とか、あるいは文部科学省のほうに働きかけて、実は、長井小学校という本当に多分、日本の現存する木造校舎では最大級のもので、なおかつ、古さでは長井小学校より二、三古い小学校も木造の校舎はあるようなんですけども、本当にこれはすごい宝だと、だからこれを何とか保存したい、生かしたいのでということで、文部科学省の政務官に直接言ったり担当の局長やら部長やら課長にもお願いしたりして、ずっと探ってきたと。

それが、最終的には内閣府のほうに何回か行ったときに、実情をお話ししたところ、今回900億円という特枠で認めていただいて示されたということから、このチャンスを生かさない手はないということで、今回、議会から見れば

唐突かもしれませんがけれども、いずれにしろ、利用するとしたら、利用する段階で免震、耐震がなっていないと利用できないわけですので、この時期に議会の皆様からご理解をいただいて、この推進交付金を使って整備をしたいということでの提案でございます。

ちょっと一部、私の不適切な発言があったことはおわびして、ご理解を賜ればというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** ありがとうございます。

そうすると、再度ちょっと確認させていただきますが、6月補正の委託料については、利用方法、活用方法に関するだけの調査委託料だと。今回の部分は、第一校舎を残すことを前提としての6月の補正だというふうなことで、今回の補正については、第一校舎を免震・耐震化をして残す、そのための設計委託料だというふうに理解してよろしいでしょうか。再度確認させてください。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 平議員がおっしゃるとおりに、まずは第一校舎を残すか残さないかといったときに、残す手法が見つかったわけでございますんで、それをまず議会の皆様にご理解いただいて、順番は逆なんだと思うんですね、本当はどういうふうにするか。

例えば、ちょっと長くなって恐縮なんですけど、長井に文化財、宝がたくさんあって、例えば菊地隆知先生の作品なんていっぱいあるんですよ。これを美術館つくってほしいと、いろいろあります。ただ、今、美術館、使えるかと。ただ、そういったときに、第一校舎、広い教室がいっぱいありますんで、そういったところに先生の作品なんかしたら非常にいいだろうなと。そこで、もしあれだったら、じっくりお茶を飲みながら眺めるとか、本を読むなんてされたら、もう最高だなという、これは自分の個人的な考え

ですけど、そういったことなども考えて、まずは、使い方についてはもう少し時間をかけてとしても、整備手法はこれしかない、これがあれば残せるということで今回ご提案申し上げたところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** わかりました。

次にですが、同じく6月定例会の最終日の渡部議員の細部審査に対する市長の答弁について、先ほども同じ質問をちょっとされていたようなんですが、ちょっと確認させていただきたいというふうに思います。

職員室、管理棟に関しての答弁で、市長から、長井小学校として、基本的に職員室、管理棟をどうするかということであります。中略で、いざれ建てなきゃいけない昇降口も含めれば、昇降口を含めた管理棟を、これは決断として、議会の皆様のご理解をいただいて、管理棟を新築、改築することはしなきゃいけない、これは義務だと思っていますという答弁であります。

これまで第一校舎にあった職員室を含めた管理棟について、昇降口と一体となった管理棟を整備するというふうなことで、先ほどちょっと第二校舎、第三校舎のあたりで管理しやすいところというふうな市長の答弁などもあったわけですが、その辺、もう一度市長の管理棟の考え方についてお聞きをしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。議会の議員の皆様からいろいろなご意見、ご提言をいただいたんですが、やっぱりそれぐらい管理棟でお金かかるんだったら、第二校舎とか第三校舎の中で職員室を設けることができるんじゃないかと、そういう声などもございまして、確かにスペースはあるんです。

ただ、現場の先生方、校長先生、あるいは平田教育長も長井小学校の校長先生でいらっしや

いましたんでいろいろお聞きしますと、物理的には、第二校舎、第三校舎、につくれば、会議室も職員室も、2カ所に分かれるかもしれませんが、できるなというふうにも思いました。ただし、果たしてそれで、第一校舎をキャリア教育とかいろんな不特定の人のご利用する施設として使った場合、本当にそれでいいのかといった場合には、やはり今の昇降口の位置が一番いいというふうに、学校側も私も、あるいはいろんな方もおっしゃっているように、あそこにしっかりと管理棟をつくることによって、子供たちの登下校やらグラウンドやら、あと第一校舎のある部分まではもう目視できると、監視カメラ等々はもちろん設置しますけども、そんなことをするのが一番望ましいということだと思っています。そういうふうにしななければいけないと。

先ほど渡部議員のご質問の中でお答えしたのは、その前の皆様のご意見の中にも、やっぱり職員室として第一校舎をもう一回使うようなこともできないかというようなこともありましたので、ただ、今回の推進交付金で整備した場合は、目的外使用って格好になるわけですね、学校の施設ですから、ですから、それはある程度、期間を置かないと難しいだろうということ。

あとは、一番最初の平成の20年ごろの議論の中では、第二校舎、第三校舎を最終的には取り壊して、新しい校舎をつくって、その中に、今の昇降口のところが職員室、管理棟としては一番いいと、そういった一体となって体育館と結ぶような、そういったのが長井小学校の理想型だろうなということでお話ししたところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 私は、管理棟、職員室については、やっぱり学校全体を見渡せるというふうな部分で言うと、昇降口と一体となったあの辺の場所がいいのかなというふうに思ってお

りますし、長井小学校は長井市内の小学校の中心校でありますし、ほかの学校を引っ張っていく学校が長井小学校だというふうに思っておりますので、ぜひその教育環境を中心にご検討いただけたらいいのかなというふうに思っております。

それで、管理棟が整備されるまでの間なんですけど、今現在プレハブを借りて、来年度、平成30年の3月までというような期間だというふうに思うんですけども、それ以降の部分になるかどうかですが、整備されるまでの間、そうしたプレハブのところで、そこを管理棟として使用してくのかどうか、その辺の流れ等についてお聞きをしたいというふうに思います。

市長、よろしいですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。現在のプレハブの職員室については、リース料が月200万円ぐらいかかるんですよ。できれば早く管理棟、昇降口をつくったほうがいいだろうというふうに思っています。

ただ、考え方としては、どうしても財源的に厳しいんじゃないかと。もう少し我慢しろということであれば、リースの契約は来年で終わりますけれども、今度は別途契約をして、今度はリース期間の延長ですから、賃料はきっと安くなると思っていますし、平成30年4月からリースいたしますと、今度はぐっと安くなるんですよ、今まで月200万円だったのが、年間で500万円ぐらい。ですから、月40万円ぐらいに減るそうです。ですから、ぐっと、要は償却期間が減るということで、これも変な話なんですけど、そういったこともありますので、教育委員会とあと現場の長井小学校の校長先生を初め、先生方と相談して、これを検討しなきゃいけないというふうには思っているところです。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 次にですが、今回の提案

の部分、6月と今回で予算の科目が変わったわけではありますが、この変わった理由について、竹田総合政策課長にお聞きをいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。6月の時点につきましては、学校教育ではない、財産として調査をするための予算でございましたので、総合政策課のほうで所管するものとしたして予算計上したものでございますが、このたびにつきましては、文化財として、教育財産、学校教育ではない教育財産として残すという方向性がある程度固まってきましたので、社会教育費のほうでの予算を計上させていただいたものでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** そうすると、今度の質疑等については、10款の教育委員会文化生涯学習課のほうが中心になるというふうなことになりますかと思いますが、わかるところでというふうなことになるというふうに思いますけれども、あと次に、公共施設整備計画の（案）というふうなことでお聞きをしていきたいというふうに思います。

ことしの8月の17日に全員協議会で示されたこの整備計画（案）でありますけれども、長井小学校の校舎については、平成28年度から32年度までの前期5カ年の中で整備するというふうに示されております。具体的に、その第一校舎の整備費用並びに昇降口を含めた管理棟の整備費用、この昇降口を含めてのその整備の費用になっているかどうか、その辺もちょっと不確かなところなんです、それらについて幾ら計上されているのか、桐生公共施設整備課長にお聞きをしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 桐生芳弘公共施設整備課長。

○**桐生芳弘公共施設整備課長** お答えいたします。公共施設整備計画の中では、長井小学校につきましては、第一校舎それから管理棟について、

28年度から32年度までの間に整備するものとして計画をしているところでございます。第一校舎につきましては、今までの出されている資料から6億2,000万円ということで計上しておりますし、管理棟につきましては、今までの議会答弁等を踏まえまして、6億円程度というふうなことで考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 次ですが、今年度、公立置賜長井病院、これの耐震診断をしているわけでありまして、公立置賜長井病院については、基本的に置賜病院の組合所有というふうになってはいるわけですが、実質的に長井病院関係については長井市の負担だということが原則になっていると思います。

それで、今年度耐震診断をしている結果によって、来年度以降、一番最優先的に整備を図らなければならない物件というか、そういう施設になる可能性が高いというふうに思うわけですが、その辺についても公共施設整備計画の中に取り入れながら進めていくべきだというふうに思いますけれども、その辺の市の考え方についてお聞きをいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ただいまの平議員のご質問にお答えしたいと思います。公立置賜長井病院については、議員ご指摘のとおりで、私ども長井市の負担が主なものだろうと。昨年度から内部で検討委員会を開催して進めておりますが、今の段階で、大きく3つほど整備手法はあるというふう考えております。

一つは、一番お金かからないやり方として、例えば、北病棟のほうですね、ちょうど見えませんが、そちらについては耐震度的にはかなり厳しいだろうというふうに見てまして、その際には、管理棟がございまして、管理棟が大分あいているスペースがございまして、こちらは耐震度のほうを十分あるというふうな結果が出

ておりますので、こちらを改造して、50床の一般病棟分は入れることができるんじゃないかと。

そうした場合に、今度負担がどうなるかということなんですが、管理棟については、やはり置賜広域病院組合の負担の部分が大きく出てくるのかということ、ただし、改装、改修ですので何十億っていうことはないと思いますが、それがまず第1です。

あと2つ目といたしましては、私どもがメインとなって負担して、新しく建てると。ただし、一般病棟の50床の部分でございますので、コンパクトでいいのではないかと。その際、県のそういった基金から幾ら支援をいただけるのか、あるいは、後々交付税措置などが期待できる起債等々でどれぐらいの負担でできるかということでございます。

あと3つ目が、私どもと民間と一緒にやってつくると、この3通りございまして、残念ながら、かなり幅がありますので、これらについてもう少し精査しながら、構想を来年度中あたりまでまとめてから、議会の皆様のご意見などを賜って整備計画に入れていかなきゃいけないんじゃないかなと思ってございまして、したがって、現在のところは、少し残念ながら、ご指摘のとおりでございますが、公共施設整備計画の中に金額も含めて入れる段階ではないというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 相手がいるっていうか、置賜広域病院組合とそれから民間PFIでするんであれば、そういった方たちもいらっしゃるわけですから、すぐにとりうな事ではないかもしれませんが、ただ、今年度耐震診断を行っているというふうな部分で言えば、早急に結論を出さなければならないというふうなところだというふうに思いますし、公共施設整備計画の中にも見直しをしながら盛り込んでいただきたいというふうに思います。

次に、6月補正の委託料の部分ですが、1,500万円議決したその後の経緯、入札の方法、決定業者、そして金額、そして今後の状況というスケジュールというか、いつごろまでにその報告書が出るのかどうか等について、竹田総合政策課長にお聞きをしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。このたびの調査事業につきましては、公募型のプロポーザルということで、インターネット、あと掲示板に公告して行いました。応募業者は3業者でございました。いずれも東京に本社を置く大手のコンサル会社でございました。

プロポーザル審査を行った結果、10月14日に行ったわけでございますが、その結果、三菱総合研究所のほうで受託業者ということで、今、契約事務を進めているところでございます。日程でございますが、3月の24日を工期として、今、調査事業を行うことで進めております。

それで、具体的な中身といたしまして、市民のニーズ調査、あと市場に実際入ってくれる業者等のサウンディング調査、あとその前に基礎的な調査といたしまして、長井市の社会教育施設、教育施設全般の基礎的な調査等を行って、活用可能性調査。あと、先ほど話題になっております、当然学校の敷地の中に位置するものですから、安全対策等の調査も行いまして、活用の可能性を探って、3月の期限までに報告書にまとめて報告が出てくる予定でございます。

金額につきましては1,500万円のということで明示しておりますので、その金額で、1,497万9,600円ということで落札を決定いたしました。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** プロポーザルの結果、三菱総合研究所が落札されたということでありますが、実際に研究所さんと話をされて、その二

ーズ調査、市場調査ということで、市内から実際に入ってくれるような業者の方がいるのか、それとも県外なのか、市外なのか県外なのか、そういった部分での最初のお話っていうか、そういうところはされたのかどうか、されたとするならば少し脈はあるのか、その辺の打診の結果についてはいかがなものかお聞きをしたいというように思います。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

このたびの提案につきましては、その中で地元の山形銀行と、あとNDソフトウェアと一緒に組んでやっていきたいというご提案がございました。当然、地元の企業と組んで調査を行うということは、当然山形銀行の金融機関とのネットワーク等も生かせるということで考えております。当然、ただ、参入する業者につきましては、市内を中心に探っていくということでございますが、当然市内でできなければだんだん置賜圏内というふうに広げるような考えでおるようでございますが、調査につきましては打ち合わせ等も今後詰めていく所存でございますので、今現在ではこの程度になっております。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 次にですが、今回、資料をいただいているわけですが、今回、10月の14日に総務と文教常任委員会連合協議会に示された資料の中で、11ページであります。一番右に(C)の28年10月の改修工事平成28から平成30で、総額7億7,750万円、工事費7億4,300万円、監理費3億4,500万円で、この財……。

(「3,450万円」の声あり)

○**5番 平 進介議員** 3,450万円、失礼しました。財源内訳が起債償還後ということで、国庫補助金1億8,300万円、普通交付税1億8,909万円、寄附金5,000万円、一般財源3億5,541万円というふうになってます。この一般財源3億

5,541万円という額について、公共施設の整備計画案の中でいうと、起債額というふうに記載されているわけですが、この説明の中では一般財源というふうに記載されているわけですが、起債償還後。その違い、その具体的な説明のところ、説明をお願いしたいというふうに……。

○**渋谷佐輔議長** 財政課長か。

○**5番 平 進介議員** うん、竹田総合政策課長に。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

この資料につきましては、今回、最初の年度、28年度から繰り越す29年度分につきましては、地方創生拠点整備交付金を充てたいというふうに考えております、国のほうに要望いたしまして。その場合、補正予算債が全額使えるもんですから、当該年度の一般財源はゼロです。

あと、その前のページの10ページに書いてある30年度の4億1,150万につきましては、地域活性化事業債の歴史的建造物云々という起債を使いますと、90%の起債が使えますので、30年度に出てくる一般財源は一時的には4,100万円程度というふうに今のところ想定しております。

それで、実はこの段階で、済みません、11ページの段階で、一時的には4,100万円しか一般財源がかからないように見えてしまうということで、実の負担額がわからないということから、この中で実質的な負担額ということで11ページのほうで明示させていただいたということでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 次にですが、今ありましたとおり、今回の部分については地方創生拠点整備交付金を活用するというようなことであります。今の一般財源の3億5,500万円については、先駆性のあるもの等も踏まえて長井市のほうで国の補助で補助金としていただける分を加味してこの金額になったというふうに説明あつ

たわけですが、その辺の国の補助を受ける可能性等について、市長のほうからお聞かせをいただきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

国のほうの今回の制度的なものとしては、国庫補助金1億8,300万円というところまでは見込めません。ただし、今回の要綱を示された中で、例えば私ども、この長井小学校の第一校舎については、推進交付金の1次募集でソフトをお認めいただいたわけですね。で、2次募集で今回のこの拠点整備の推進交付金、ハードの部分、認めていただきますと、これ連動するとその幅が大きくなるということ、なおかつ特に先駆的な取り組みであった場合は、いろいろ私どものほうからきちんと説明してご理解をいただければ、さらにその最大の上限額まで認めていただく可能性が高いというふうに判断いたしまして、最大限の補助金としてこのぐらいをぜひ見込ませていただきたいということで、そのつもりで私も認めていただきましたら、何としても国のほうに繰り返し繰り返しお願いして、この金額をいただけるように頑張る覚悟でございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩します。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開します。

なお、高石潤一総務課長から早退させてほしい旨の届け出があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

それでは、日程第3、議案第75号 平成28年

度長井市一般会計補正予算第7号の質疑を続行いたします。

5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** それでは、引き続き質疑をいたします。

第一校舎の部分ですが、あそこ、免震耐震化して、まちなかの交流人口の誘客、学びをテーマにして多くの皆さんにおいでいただくというふうなことであります。そうした場合に、現在の敷地の部分で具体的に駐車場をどうするかというふうなところが課題になってくるかというふうに思うんですが、その辺の考え方について、市長にお聞きをしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

できるだけ敷地内には駐車はしないと。いわゆる長井小学校の敷地内。例えば、向かい側の今第2庁舎が建っておりますけれども、そこについては非常に危険な庁舎であるということから、できるだけ早く違う場所に移って業務をとというふうに考えておりますが、この部分につきましては、恐らく今回お認めいただいて、改造、耐震、免震など工事が終わるまでにはあそこ更地になっているだろうと。そうしますと、現在の庁舎の隣の駐車場も含めてまとまったある程度の面積が確保できますので、そこに駐車場なりミニポケットパークなりを整備して、そこを活用いただくという考え方でおりますので、やはり学校敷地内には部外者の車はとめないというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平 進介議員。

○**5番 平 進介議員** 最後の質疑になります。第一校舎の整備については、物理的にも小学校の校舎から切り離すという構想であります。学びの場としての活用を考えるというふうなことであれば、現在の2つの渡り廊下、正面玄関から第二校舎に入っていく部分と西側からの渡

り廊下と2カ所あるわけですが、それについてはとりあえず西側を取り壊すかどうかについてはこれからの話だというふうに思うんですが、正面から入ったところの渡り廊下を残して、小学校の例えば児童が、第一校舎の学びの場っていかそこに入ってくるときに、履物を履きかえずにズックのままでも来れるような、部分的に空間があるかもしれませんがそうした形をとったほうが時間的にも児童が使いやすい建物になるのかなというふうに思うんですが、その辺の考えについて、市長はいかがお考えでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 具体的なところはやはり教育委員会のほうと協議しなければならないと思いますが、議員おっしゃるとおりに、主に小学生、中学生の市内のキャリア教育ということがまず第一、あとは恐らくかなり評判になって置賜はもとより山形県内とかぜひ使わせてくれというようなことになると、なるような施設を目指さなきゃいけないんですけども、そういった場合とか、あとはそれ以外にも大人も学ぶ場所であったり、あるいは文化的な、あるいは芸術的な展示とか歴史の資料とか、史料館とかいろんな機能がございまして、その渡り廊下から学校には容易に行けないような対策講ずれば、渡り廊下を残すっていうことの方法もあるというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 午前中にご質問いただきましたことにつきまして、資料が出てまいりましたのでここでご説明をさせていただきたい、お答えをさせていただきたいというふうに思います。

まず、町田議員からご質問ありました補修、改修等に幾らかかっているんですかというご質問に対してですが、主に昭和63年から平成元年にかけての大きな工事について金額をお答え申し上げたいというふうに思います。

まず、昭和63年の工事は、屋根の工事、建具

工事、塗装工事等々でございまして、1,450万円でございます。工期は昭和63年5月20日から昭和63年6月30日にかけて実施してございます。

それから、同じく昭和63年の8月に工事した消防防火設備工事がございます。これは屋内消火栓設備の工事、それから消火ポンプ室の工事、電灯コンセントの設備工事などでございます。合わせて880万円でございます、工期が昭和63年8月5日から昭和63年9月の15日までというふうになってございます。

それから、もう一つ、平成元年に行われました長井小学校第一校舎保存補修工事、これは大変大きな工事でしたが、内部、便所、校長室、応接室の補修を中心に各教室、現在は教室でないわけですが、各部屋、職員室等の床の補修、天井、建具等の補修を行ったというものです。これにつきましては、金額が2,348万4,000円、工期は平成元年の7月の20日から9月の30日までというふうになってございます。

で、この昭和63年から平成元年にかけて、トータルしますと全部で4,678万4,000円ということになってございます。以上が工事費の件でございます。

もう1点、蒲生議員からご質問いただいた教育委員会としてどういう第一校舎の取り扱いについて議論があったのかという件についてでございますが、午前中、ちょっと金子議員の質問のときに申し上げましたが、実は長井小学校整備の考え方ということで、平成21年に独自に検討委員会を設置して検討しました。この検討委員としては、教育委員長初め教育委員のメンバー、PTAの代表の方、長井小学校です。それから中央地区地区長会長さん、それから歴代の校長の代表の方などのメンバーでございまして、長井小学校の将来構想ということ、それからもう一つが長井小学校の全体構想として第一校舎、この場面、平成21年の段階では第一校舎は学

校として使いながら保存していくという方向性が出されております。

で、教育委員会では、その検討結果を踏まえまして、平成22年に第一校舎につきましては管理棟建築までの間、平成33年ごろ、校舎として使用すると。で、早い段階で耐震補強を施すことというふうな結論を得ているところでございます。ただ、その28年度から第一校舎の耐震改修工事を行うべく準備を進めていきましたが、当初見込んでいた6,700万円の補助が見込めないということで、手法等を含めた再検討を行い、なるべく早目に整備を実施したいというふうな結論に至ったわけでございます。

この今回の学校から切り離し、それを文化施設といいますか、ある意味教育施設ではありますが、学校としてではなく、生涯学習にかかわる、あるいは文化的な施設として整備するということに関しましては、3月の定例の教育委員会で報告事項として事務局のほうから出し、委員からは了承されたというふうなことでございます。中身で十分協議したということでは残念ながらありませんでしたが、報告事項として報告し、それでよかろうということで教育委員会としては納得したというようなことでございます。

○渋谷佐輔議長 それでは、ご質疑ございませんか。

6番、鈴木富美子議員。

○6番 鈴木富美子議員 市長にお伺いしますが、改修工事の中で起債償還後の財源内訳の中に寄附金5,000万円と載っておりますが、これはどのような形で行うのか、5,000万円という金額は望めるのでしょうか。

○渋谷佐輔議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

寄附金5,000万円というのはかなり大きい数字だというふうに認識しております。あえて5,000万円というふうに上げさせていただきま

したのは、平成18年に当時まちづくりファンドを組もうということで、これは国土交通省の外郭団体に民間土地開発推進機構って制度がございまして、歴史的な建造物などをできるだけ保存すると、そのためには基金を造成して、そしてその基金を使って通常民間の所有のものについては補助っていうのは出ませんので、それをその基金を使って支援していこうということから、いろんなタイプがあるんですが、長井市としては9,000万円のまちづくりファンドを組もうということで、これは長井商工会議所さんが中心となって長井市も同意して組みました。その内訳が、長井市は3,000万円、民間土地開発推進機構が3,000万円、そして長井商工会議所さんが中心となって市民から寄附をいただくと、それが3,000万円ということで、約半年ぐらいかけられたと思うんですが、済みません、定かじゃなくて恐縮なんですけど、で、最終的には民間の寄附が3,000万円を超えました。ただし、当時の商工会議所の横澤浩次会頭が大分個人的にも献金されたということの特別な要素はございますけれども、3,000万円以上の寄附を市民といいますか民間の企業、市内の企業、個人からいただいたということでございますので、長井小学校の第一校舎というのは、長井の教育のシンボルであるということから、3,000万円ぐらゐの寄附はやっぱり頂戴するように努力しなきゃいけないと。

加えて、昨今ではふるさと納税のガバメントクラウドファンディングという制度がございまして、今月、ふるさと長井会も立ち上げました。そんなことから、まず5,000万円の寄附を目標にしたいと。なお、内部での検討事項として5,000万円に遠く及ばなかった場合どうしようかというようなことがございましたが、これはまだ十分に議論されておりましたが、以前から長井市の、特に文化的ないろいろな長井の資産を守るということから、心のまちづくり基金と

いうのがございまして、これは9,000万円ほど寄附をいただいて、これ昭和58年に造成したんですが、以降、利率の果実でそれでソフト事業を中心というふうにしておったんですけども、残念ながら今利率はほとんどございせんし、そしてせっかくの浄財がそのまま放置されているような状況ではもったいないと常々思っております、心のまちづくり基金の趣旨から言って、やはりなかなか寄附を仰ぐのが大変だとすれば、そちらから1,000万円とか2,000万円とかそういったことで取り崩させて使わせていただくということもまず検討しなきゃいけないんじゃないかと、これは議会を含め、市民のご意見をいただきながら、最終的には足りない部分はそういったものにご協力いただいて5,000万円を目標にということでこれは十分可能な金額だということで計上させていただいたところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** これは今後の問題でありますので、また新たに検討していく問題だと思います。

話ちょっと戻るような形で恐縮ですが、泡淵参事にお伺いしたいんですけど、参事は長井市生まれでもないし、長井小学校に対して、ここにいらしたときにどんなイメージを持ってこの長井小学校を利活用できるのかなと思ひまして、ちょっとお伺いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 泡淵栄人地方創生参事。

○**泡淵栄人地方創生参事** お答え申し上げます。

まずは第一校舎を見たときに、こんな大きい校舎があるものかと、まずはびっくりしました。ですので、これはインパクトが非常にあるなと思っております。あとは当市のリーディングプロジェクトの1番目が教育でしたので、そことあわせて使っていけば非常にインパクトとともにランドマークのような形で、中心市街地の中心部となっていくようなものになるんじゃない

いかなと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。私たちがずっとここに生まれているので、そんなすばらしいというか、すばらしいと思いますが、やっぱり泡淵参事のように感動してるわけでもちょっとなかったような、私的には思っております。

来年から、4月から観光交流センターがオープンするわけで、やはり動線の中に長井小学校第一校舎は大事なものだと思ひます。今、まち歩きが3カ月で約40人ぐらいの申し込みがありまして、ボランティアガイドさんは忙しそうにしていますので、ぜひ小学校を魅力的なものにしていけないといけないなと思ひますので、ぜひこれからみんなで考えていきたいと思ひますが、やはり運営に関してすごく不安なところがありまして、そこを市長もう一回聞かせていただいでよろしいですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員がおっしゃるように、運営でしっかりと市民の皆様を活用いただいたり、市内外から多くの皆様に長井小学校第一校舎をごらんになった中で、さまざまな機能を設けることによって楽しんでいただきたい。それが長井の教育がすばらしいということの象徴にもなりますし、あわせて中心市街地に入っていくための、特に観光交流センターからの動線としては非常に貴重な存在だなというふうに思っています。

そこで、運営でございますけれども、1階の部分についてはやはり市内のいろんな層の皆様から、特に文化団体の皆様からもいろいろ活用すべきだという案が以前からございました。特に長井の舟運文化を見て感じていただける場所がなかったりとか、あるいは貴重な文化財をしっかりと市民を初めいろんな方に見ていただく美術館的なものもないということで、そういっ

た活用の方法、それから私も仙台市のキャリア教育のほうの視察をさせていただきましたけれども、仙台市のほうには宮城県、福島県からも来てるそうなんです、ぜひうちでも使わせてくれという小学校からの中学校からの依頼が殺到してるんだそうですね。しかし、仙台市以外は使えないというふうにしてるようでございますけれども、そういったことでうまく活用方法を検討した、そして内容もプログラムもいいものをつくれれば、きっと多くの利用が見込めると。

あと問題は運営の部分でございますが、私も行政で運営するという非常に固定的な考えではなくしなきゃいけないということから、特に2階の部分などについては公募をしまして、うまく使っていただける事業者の方を選びたいと。選びたい、じゃあ、本当に応募があるのかというような疑問もあるかもしれませんが、私は十分にこれはあり得るというふうに考えておりまして、そうしますと肝心のランニングコストの部分が市からの持ち出しを極力出さずにいけると。なおかつそこでいろんな方々にお金を落としていただくということが地域の長井市の経済の活性化にもつながりますので、そういった施設として、また新たな可能性が出てきたということで、全力でこれは我々、議会の皆様からのご意見をいただきながら、成功するように努力しなきゃいけないと思ってるところです。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 先ほど、教育長の資料の前段で、資料の説明の補足などもありましたので、教育委員会で学校施設として議論したことはなく、ことしの3月、その報告という意味で教育委員会では了としたというふうな、今し方あったわけです。私は多くの議員の方の質問をお聞きして、なるほどなということがいっぱいあって、少し見えてきた部分あるわけですが、まず基本として、教育委員会も何でもいわゆる

全市民、行政として長井小学校という教育現場をどういうふうにこれからしていぐのかさっぱり見えない中で、長井小学校の第一校舎の保存とか維持管理のことばかり語らちえるなっていうふうな印象受けたので、そこちょっと確認したいんです。

まず、道の駅の、観光交流センターの賛否のときもいろいろ私んでは議論の項目で教育施設に限りなく近い、そういう多くの方が集まる施設は適当なんでしょうかというやりとりをしたことがありました。で、それは、観光交流センターのいわゆる配置なり、例えばめぐみ幼稚園、長井小学校の方々と話し合いをして、そしてできるだけ防犯上も登校や園児の送り迎えなんかに支障のないようにということを検討しながら、了解も得てきたんだということが道の駅の建設の準備段階であったわけです。それはそれで当時の議論ですから、だけんども、長井小学校がさらに現在の敷地内さ、学校施設以外の施設として利活用して、多くの方に利用していただくというふうなことはかなりおっきな課題抱えていねなんがと。つまり、一番私、心配してるのは、やっぱり防犯上、あと教育的に子供たちの不安や気持ちが安定して、教育受けられる状況、守ってけれんのかというふうなことです、まず一つは。まずはそこを教育長でもいいんだけれども、学校教育課長、今、おいでですので、いろいろ今まで子供のいじめとかさまざま問題あったけれども、安全な教育環境を整えてけるというのは行政のまず第一歩だべなというふうに思うとき、こういう進み方で、考え方でいいのか、また、今、提案されてる施設と学校現場をどういうふうにか、さっき平議員は廊下なんかをむしろつなげる方法ねえのかなんていう、逆に新しい提案もあったんだけど、私はいかに遮断したり安全面を確保される施策をとられるのかっていうほうが心配なんだけれども、課長からそこら辺の検討した経過とか、こ

れから想定される言葉としてこういう場合はメリット、デメリットなんていうことじゃねえんべげんど、心配事、対策、検討されたのか、お聞きをしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 鈴木博郎学校教育課長。

○**鈴木博郎学校教育課長** 今、小関議員からご質問のありました件については、まず第1に児童生徒の安全というのは教育現場で外せないこととでございます。教育委員会内事務局でも、十分そのことについては話し尽くしたとは言えませんが、どうやったら子供たちの安全を守るかについては議題に上げて検討してまいったところであります。

具体的な方法については、フェンスの問題とか、どういうふうにいらした方々と学校にいる子供たちのすみ分けをするかということも大きな課題ですし、それが物理的なフェンスのようなもので安全が確保できるものなのか、それとか、人的な、人を雇って、ガードマン的な方を雇って安全を確保できるものなのか。あと一方では、子供たちは敷地内でトリムコース走という持久走なども行っています。そうすると、場所だけの問題じゃなくて、時間的な制約、使える、使えないということについてもこれは今後、まだまだ議論していかなくてはならないと考えております。現段階では、まだ具体性っていうところまでは行きませんが、今後話を進めるに当たって、こういったことは決して外せない内容だと思います。

ただ、先ほど来ある質問の中で、話の順番とかにつきましては私の立場では申し上げるべきことではございませんので、ここで申し上げられることは何をおいても子供の安全安心を確保するという点を外してはならないという点と、あと場合によっては、今こういう時代ですから、どんな事件が起こるかわかりませんので、いろんな場を想定する必要性もあるし、一方、逆の視点からすれば、せっかく外からおいでの方々

と交流する場にもなり得るのかなど。例えば、伊佐沢小学校で実践している桜っ子ガイドというのがあります。これ本当に全国からいろんな方がいらして、場合によっては伊佐沢小は英語も頑張っていますので、外国の方とお話をしたりということもあります。

というように、いろんな可能性も秘めているのです。ですから、いろんな側面からこの問題については考えていく必要があるのではないかと私は考えております。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** ぜひ、この第一校舎の保存のためのということでは決してないと思うんで、これはしかも長井小学校の問題ばかりではないわけで、教育の現場をどういうふうに安全に確保していかというのとは今後、どの学校においても考えていってほしい問題だなというふうに思いますが、教育長からさっき、学校施設としてでなくて使うことについては報告はして了解を得たということですが、こういう課題ってというのは教育委員会のそのときの報告をして、教育委員会としてじゃあ、報告で了と、それだけで終わったんか、さまざまな課題を整理整頓して第一校舎問題さ、当だっていくべというふうになったのか、俺、非常にそこが気になんのよ。さっき前段の質問ときもどういうふうに教育委員会で話し合われたのですかというふうな投げかけはやっぱり、ずっと記録やこれからの課題さ大きく残る問題だべなと思うんで、ぜひそこら辺教育長から再度、報告したと、手放して、んじゃいいべってなったのかどうか、もしわかればお聞かせください。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 今の小関議員のご質問にお答え申し上げたいというふうに思いますが、確かに今、記録を昼休み大急ぎで調べまして、どんな協議がなされたのかということを見たいというふうに思ったわけですが、報告事項

として格別異議なく了承されたという記録しかございませんでした。

で、先ほどちょっとご説明申し上げました長井小学校の整備についての全体的な計画というのはなかったものですから、平成21年に先ほど申し上げました検討委員会、教育委員会、PTA、地区の方、歴代校長さん方等を委員とする検討委員会を設置し、その中では十分教育委員の考えも入れて議論なされたというふうに思います。その中の一つの結論としては、いずれ将来的には第一校舎は学校から分離して文化財として保存、活用するんだっていう方向性がこれはきちっと出されているわけです。ですから、今回、それがちょっと早くなったという捉え方になったのではないかと、これは私の推測です、というふうに考えてございます。ですから、さしたる議論なくそうかということ。

ただ、そのかわり、じゃあ、管理棟はどうするのかということについては、先ほど午前中市長から答弁ありましたとおり、第二校舎の改修、改築とあわせてそこ管理棟をやっていくんだ、それまでの間、第一校舎は管理棟として使っていくんだということがあったわけです。ただ、耐震診断をしたら、すぐにこれは退去しなきゃいけない状況だということになったものですから、今プレハブを建てていただいてそこでやってるわけですが、したがって、教育委員会としては方向性はもう明快に決まっているというふうに思います。つまり、管理棟を、午前中市長からも答弁あったとおり、早急にとは、長井市のそういう公共施設の整備計画の中に入ってくると思いますけれども、教育委員会としてはできるだけ昇降口の上部に管理機能を持った職員室だけではなくて、やっぱり職員室、校長室、事務室、それから印刷室等々、要するに第一校舎にあった機能をまとめた形で設定していきたいというふうに思っております。

なお、これは蛇足でございますが、第一校舎

に管理棟があった時代、歴代の校長先生方が私も2年間お世話になったんですが、子供たちの声が全く聞こえないと、子供がグラウンドでどうやってんのかわからない。生徒指導の担当者が見に行ったりして定期的に手分けして不審者がいないかとかやっておりましたけれども、やっぱりこれは管理上は問題だねという話はずっとしておりましたので、できれば新たな管理棟としましてはグラウンドで遊んでる様子が見えたり、登下校の様子が見えたり、あるいは不審者が入ってこないかモニターでチェックできたり、モニターでチェックしておかしいぞといったときにすぐに対応できたり、そういうところに管理棟を設置していきたいねというふうな話はずっと出ていたところでございます。済みません、蛇足まで申し上げます。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** かつての検討委員会の場でも大分議論して、教育施設から離す部分も検討はして、その当時からしてきた。で、目標としては平成33年ごろまでいろいろな経過を経ながら目標達成というか実現に向けてというふうな説明、了解しました。

そのの、時期的にも限りなく近づいてきたし、耐震なり管理棟の計画も子供を管理できるような場所や目線がある管理棟をつくりたいということで、あともう1点、子供の安全性等含めてですが、先ほど来、市長からも答弁の中でもあったんですが、今回の特別枠、いわゆる地方創生の推進交付金等特別、約900億円くらい決まったので、それを活用できそうだというふうなことでチャンスだというふうな言葉があったわけですが、非常に私んだそこ難しい判断です、これ。なぜならば、管理棟も6億円かかると、ぐらいつてさっき課長からも説明あったんですが、あわせて今回7億8,000万円ほどの約半分自主財源だとしたって4億円ぐらいかかるわけです。トータル約、これざっくりですが10億円。

これ順序としてはやっぱり今の管理棟、仮設の職員室、子供の安全なんかも考えれば、たまたま今回こういう交付金が当てはまりそうだっていうふうなことがあったので、そっち先というふうなことなのかもしれませんが、管理棟はじゃあ、いつまでにつくるっていう検討は、やっぱり教育委員会と当局と詰めていかねえと、長井小学校のPTAの方だとか長井小学校の学校関係者、これ納得されんなんべかな。これむしろおかしいなんねか。今の長井小学校の教育現場を将来は、何年後はこうしますっていう安心感の中で第一校舎をじゃあ、いろんな方に使ってもらって、子供の安全云々については十分考えながらそのエリアを使っていくということであれば、俺わかるような気すっけんど、こっちが先行して、じゃあ、将来、仮設の職員室いつするかわかんね。教育長からは目標33年までというふうなこと、説明あったわけけんども、そこんところは市長、なんじよなだす。学校の整備の計画って、かまんといろんな事業、編成さあわせてすんのか、先ほど来説明あった学校施設のはもう自主財源でしんなねあんだっていうことは、腹くくってよ、計画決めるべきなんでねえかなっていうふうに私は思うんだけど、その辺は市長からお聞きしたい。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答え申し上げます。

小関秀一議員おっしゃるとおりで、私としてはいち早く管理棟をしたいということは以前から言っております。ただ、問題なのは、全て補助なしの、市が負担しなきゃいけないと。で、まずは去年、この3月だったわけですよ。やろうと、第一校舎をまだ職員室と使えるんじゃないかということで補正をお願いして、3分の1の支援をいただきながらやろうとしたんですが、これはおっしゃるように、ご存じのとおり1割しかつかないということで、これが第一校舎を職員室としてまだ学校で使うのは難しいと

いうことで断念したところですよ。

で、今後、やはり問題は何とかほかにいい財源がないかということがあって、第一校舎も含めて今後どうするかということももう少し議論して、いろいろ調査をしてということでも考えておりました。ただ、緊急にこの夏にそういったことが示されたもんですから、もう具体的に見えたので、なおかつ我々のいろいろな情報の判断の中からこういったものが900億円みたいなものが今後継続してあるとは考えられませんので、今回1回限りだろうというふうに思っています。したがって、制度じゃないので、これはまずできるだけ早く手を挙げなきゃいけないということから、残念ながら管理棟をいつどのぐらいの金額でやるかということを決める前に今回の上程になったということでございます。

したがって、私個人といたしましては、まだ庁内での議論も不十分でございますけれども来年度でも議会のお認め頂ければ、管理棟はもう大至急建てるべきだと、このように思っています。ただし、公共施設整備計画全体像をちゃんと示した上じゃないとだめだと、こういう議論に当然なるわけでありますので、そこも一緒に急いでいるという状況でございますので、そのところは繰り返しになりますけれども庁舎もどうするか、文化会館もどうするか、病院もどうするかとか、学校調理場とかいろいろございますので、それらを長井小学校の校舎の部分だけ、それを度外視してやれというような議会の皆様のお話でございましたら、私は別にしてやっぱりすべきだと、子供たちの何ととっても教育の場であり、しっかりと守らなきゃいけない聖域でありますから、そのように考えております。何とぞ、そういったときには私どもも頑張って今後の計画もあわせて大至急つめてまいりますので、ご理解をいただきたいなというふうに思っているところです。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 11番、小関秀一議員。

○11番 小関秀一議員 わかりました。ぜひ至急、やっぱり計画をお願いをして、今、市長から来年度でも早ければ早いほど私も教育現場の整備というのは必要だべなど。これ同時進行でしょうねと私は思います。片一方で第三者なり市民の方が入ってくるエリアがあって、そして仮設で職員室づくりながらそっちの管理棟、いつでっかもわかんないというのはおかしい進め方だなというように思うので、私は基本的には順序逆だとは思ってるんだけど、こういうさまざまな事情があつてのことだとすれば同時進行だし、やっぱり管理棟の計画は大至急、市民の方に示していかねえと、第一校舎を守れという以上の緊急性があんなべなどというように私は思います。

あともう一つ、最後ですが、今後、管理棟と何か社会文化施設、市民が使える施設を分離するに、さっき課長からはいろんな手法あると。例えば、柵とかガードマンとかの安全の対策あると。で、県内、県外、さまざまこういう利活用の部分っていうのはあつて、恐らく研究、視察、検討してやったんだかしんねえけども、例えば、しかも、さっきプラスアルファで来られた方との子供たちとの交流もある程度考えんなねということであれば、例えば前に紹介あつた山形の第一小学校のまなび館とか、そういう部分については実際に見られて、子供の安全な対策とか実際にそういうのも、さっき課長からはけんけんごうごうの議論、そこから始まってたんだっていう話をお聞きしたわけですが、実態、そういう研究、研修、視察等し合つてんのかどうか、その辺、課長、もうちょっと繰り返して悪いけども。

○渋谷佐輔議長 鈴木博郎学校教育課長。

○鈴木博郎学校教育課長 今、ご質問あつた件につきましては、まだまだ視察の面では足りないと思つています、正直申し上げます。ただ、どういふケースがあるかについてはいろんな情報集

める方法もございますので、それは現場に出かけて勉強する必要があると思つています。

あと、宮城の登米市のところに学校施設って言つたらいいのかわかりませんが、古いそういう木造の建築物を使った、いわゆる観光のお客さんをお呼びして昔の制服や制帽ですね、かぶってもらつて写真を撮つたり、あと先生役の方が来て起立、礼をかけて、昔風の授業をしたりというの私も見たことがございます。その隣に小学校があるんですけども、一応、フェンスはございますが、誰かが行き来する気であれば行けるといふ状況で、ガードマンらしき人はいないという認識が私でございます。

というように、いろんな方法、形っていうのはあるかと思つていますので、今、検討はしているとはいうものの、まだまだ先ほど答弁させていただいたように具体性には若干欠ける部分がありますので、今、議員からご指導いただいた視察をいろんなところへ行つてみるとか、いろんな情報を集めまして、先ほど来申し上げたいいろんなケース、どれが一番ベターなのかを考えて、まだまだ検討はする必要があると思つております。

○渋谷佐輔議長 11番、小関秀一議員。

○11番 小関秀一議員 私はお金の部分、財政の部分、あとさまざまな補助を活用しての公共施設の維持管理等課題、これからも検討しなねげんども、やっぱり一番は子供の安全な学校管理の部分で十分に納得しながら前さ進まねえと、何億円もかけて市民の方、市外の方のにぎわいの場つくるのも大事だげんども、事故が起きてからでは遅いよというふうに私は心配するので、ぜひそこは、今回の問題で一緒になつてぜひ検討していただければ、してがんなね部分だなというふうに思つていますので、よろしくお願ひ申し上げて質疑を終わります。

○渋谷佐輔議長 ほかにございませぬか。

12番、五十嵐智洋議員。

○12番 五十嵐智洋議員 先週の月曜日に総務委員会での議案を審議するために第一校舎を隅から隅まで見てまいりました。私の母校ですが、卒業式とか入学式では1階のほうにはお邪魔させていただきましたが、2階まで見たのは久しぶりで、さすが私が母校、長井小学校第一校舎すばらしいなというふうに改めて認識して、何とかいい方向に行ってほしいなというふうに思っけよう、いろいろこれから論議させていただきますと思います。

まず最初、教育長にお尋ねしますが、このたびの議案は、長井小学校第一校舎を学びやの雰囲気を残しながら、学びをテーマとした集客施設として横文字、リノベーションし、中心市街地におけるにぎわいの創出等を図る事業に取り組む。コンセプトは木造校舎を生かした学びの場、事業概要は、子供の学び場、大人の学び場、居心地のよい空間（ブックカフェ等）で、行政主導ではなく民間事業者による校舎の活用と総合政策課長は説明しましたね。それで、教育長も私の質問にそのとおりですと答えました。

今回の補正予算は、平成30年までの改修工事費として一般財源から3億5,000万円余りの事業費を必要とする高額なものであるのに対して、概要が漠然とし過ぎていると私は感じます。子供、大人の学び場とは、民間事業者の校舎活用とは、もう少し具体的にお示し願いたいと思います。

あともう1点、長井小の前校長や教育関係者、PTAから第一校舎を保存してほしいと強い要望があったと説明受けましたが、これも具体的にお願いたしたいと思います。

○渋谷佐輔議長 平田 裕教育長。

○平田 裕教育長 五十嵐議員のご質問にお答え申し上げたいというふうに思います。

まず、長井小学校の第一校舎の中でどんな活用をしていくのかということについてでございますが、総合政策課長のほうからご説明申し上

げましたような形は一つ当然考えているわけですが、今回の事業の場合は一つはまず第一校舎を、教育委員会の立場として言えば、保存して活用していただく、まずこの方向性でぜひお願いしたいというのが教育委員会の立場でございます。しかも、できればそれをキャリア教育であったり、さまざまな教育的な展示物であったり、あるいはミニ美術館的な要素であったり、さまざまなことが考えられるわけですが、その活用の仕方についてはさまざま民間のアイデアを生かしながら、中には当然訪れた人がゆったりとくつろげるような場所、それも加えながら、一緒に魅力的な文化施設といえますか生涯学習の場としていただければありがたいなというふうに考えているところでございます。具体的には、プロポーザルのほうでさまざまな活用の仕方の提案があろうというふうに思いますので、それを受けながらまた教育委員会としても考えていきたいというふうに思います。

それから、もう1点、さまざまな場で第一校舎のことについて議論してきた、そのさまざまな場とはどういうことかというようなご質問でございますけれども、例えば、歴代のPTAの会長さん方、これも午前中、市長の答弁にございましたけれども、平成28年の3月でございますけれども、歴代PTA会長、梅津利男さん初め、ずっと歴代の方お集まりいただきまして、今後の第一校舎の活用の仕方等につきましてご意見をいただいたところでございます。その中では、免震耐震工事、その想定しておったものよりも補助が非常に少なかったということで、今後、そこの第一校舎を校舎として耐震免震していくということではなくて、文化施設として学校から切り離し、別の補助金を活用して耐震工事を行ってほしいというふうなことで意見交換会を実施したところでございます。ここでは、先ほどから議論になっておりますとおり、子供たちのやはり管理棟にかかわる部分、子供

たちの教育ということをやっぱり第一に考えながら、新しい管理棟について早急をお願いしていきたいというようなことが出されたところでございます。

また、あわせて、歴代の校長からもさまざまご意見いただいたわけですが、私ももちろん参加させていただいたんですが、やっぱり今長井小学校で生活している子供たちの教育環境の充実というのが一番大事だということで、早急に管理棟については、第一校舎はできないわけですが、早急に実現をお願いしたいというようなことを議論したということでございます。私もその中に入れていただいて、まず子供たちの教育を最優先に教育環境の充実ということを最優先に考えていただきたいというような意見を述べた覚えがございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 財源の内訳として今、5,000万円の寄附金を見込んでるわけです。先ほど市長からも答弁がありましたけども、なかなかどうして厳しいと思うんですよね。5,000万円ですか。それで、やはり保存を望まれた、例えば歴代校長、教育関係者、PTA、こういった方々から、卒業生も含めて寄附金を募る組織のようなものを立ち上げるといったようなお考えは将来的にでも結構ですが、ございますか。教育長にお尋ねします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 5,000万円という数字が出ておりますけれども、寄附をどういうふう募っていくかということにつきましてはまだ具体的に教育委員会内部で十分に議論したわけではございません。ただ、現在、私として考えていることをちょっと述べさせていただきたいというふうに思いますが、当然、長井小学校の第一校舎はこれからは長井小学校の卒業生のために残すのではない。これは長井市民全体の財産として残し、守っていくのだということのまず、ひ

とつ決意っていいですか、そういうのが必要だというふうに私としては考えております。

その上で、ただ、やはりその校舎にお世話になった卒業生、あるいは職員、もちろん歴代校長等も含めてですが、そこの方々にはやはり将来的に残していくんだということで寄附のお願いは組織をつくってやっていきたいというふうに考えております。ただ、5,000万円を集めるというのはかなり大変だというふうに私も思いますので、できれば何とか1,000万円ぐらいは寄附で、OBだけでいえばですけども、それ以外の部分についてはもちろん長井小学校の卒業生だけではなく、いわゆる市民の方、それから県外の、例えばクラウドファンディング等々での応援、そういうものを入れながら何とか5,000万円にしていきたいというふうには考えておりますが、卒業生には特にご協力いただきたいなというふうに思ってるところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 私も卒業生ですが、政治家ですので寄附できないですね。

やはり寄附っていうのは大変だと思いますよ。ですから、中心的組織がなければこれは非常に厳しいと思いますので、その辺も検討していただきたいと思います。

創生会、私ども会派で仙台に視察に参りまして、この仙台子ども体験プラザです。先ほど市長が触れられた体験型ですね。市外、県外からも使っていただいて、これ有料らしいですから、それで収益を上げたようなお話、構想ですよ、あくまでね。で、一般財源と寄附金で4億円以上の財源が必要として現在、国の補助金と交付金も曖昧なわけですよ。そこでこの第一校舎の活用を進めるということで、市長はまず走りながら考えるんだというふうにおっしゃって、まず手を挙げて採択いただかなければ何もならないと。まず、あの第一校舎を何とか、あの立

派な校舎を保存したいというふうなお考えですけども、やはり費用対効果がなければその辺も考えつつ事業を進めていかななくてはならないと思うんですね。

そこで、先ほど子ども体験プラザについてお話があったんですけども、私が見てきた限り、小学生に対するスチューデントシティというふうなことをやられていて、実際の体験をするわけですが、ここに賛同している企業は大企業だけでした。まずローソン、七十七銀行、大手宅配便業者、NTT、あと仙台市役所ですか。あと「萩の月」で有名な菓匠三全だとか、宮城県、仙台市の名立たる企業ですよ。で、これ協賛すればお金がかかるんですね。子供たちに提供したりすることもありますから、果たして長井市でそういったことが可能かどうか、非常に疑問なんですけど、その点いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 五十嵐議員おっしゃるように、仙台市で行われていた協賛企業については大手の企業さんでした。あとは、私も見たときは当日は行われてなかったんですけど、中学生のほうのそういう体験する場についてはさらに大手でした。地元の仙台じゃなくて、全国的な企業でした。

で、私は、この例えば長井小学校の第一校舎を使ったキャリア教育というのは、私ども長井市内の小学生はもちろん学校側から協力いただいて、キャリア教育として長井独自のものをやっつけていこうと。仙台市でされていたのは、ちょっと物足りないなと思ったのは、みんなサラリーマンになるということが前提なんですよね。そうじゃないでしょうということ私としては不満に思ったんですけど、その場合、仙台市は小学校だけでもう百何十校あるわけですよ、百二、三十校。で、私どもは6校しかありませんから、当然、県内の、あるいは周りの県からも受け入れるということを考えれば、スポンサー

企業を協力いただくことは難しくないというふうに思ってます。これ、おまえ、そんなことできるんかって言いますけども、できます。これ、私は自信あります。そのぐらいのつもりでないと、やっぱりこれだけの計画はきちんとできないと思ってます。

さらに、今回、三菱総研さんで受けていただきましたし、地元山形銀行とNDソフトさん、どちらも一部上場企業なわけですけども、そちらのほうのご協力を仰いで一緒にやるわけですから、もうむしろそういうような考え方でいかないとだめだろうと。ただ、協賛スポンサーとは別に経営はできるだけ地元の企業に受けてもらいたいなど。あるいは地元の企業も参画して新たな企業体みたいなのをつくってやってもらいたいというふうに思っております。そういった意味では五十嵐議員おっしゃるご心配もごもっともですけども、やはりそれぐらい先駆的な事業だと思います。全国的にも仙台市でされているようなそういうキャリア教育の施設っていうのは、関西のほうに京都とか大阪だったかな。東京もちょっと違ったものはありますけども、少なくとももう三、四個しかありませんので、ぜひ私どもとしてはこれちょっと大それた言い方かもしれませんが、全国でもぜひ長井のキャリア教育で学びたいというようなものを皆様からお知恵をお借りしてつくってきたいと、そのように思っております。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 今、企業さんには難しくないというふうなお話でした。

三菱総研というお話も出てきたんですけども、今後、事業展開をするに当たって、コンサルタント会社とかそういったところですね、県外の、そういったところにもいろいろお願いするということでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 県外のコンサル、結局ソフト事

業で初年度は1,500万円でいろんな調査等構想を立てるということですが、2年目以降も具体的なプログラムというのは東京のほうにそういうプログラムを開発するような会社がありまして、仙台市のあそこのスチューデントシティを拝見してびっくりしたのは、すごいプログラムだねと、これは地元では考えられないでしょうということで仙台市の教育委員会の方にお聞きしましたら、やはり全国的にそういう開発しているソフト会社があると。これは日本じゃなくて世界的にいろいろつながってる、日本独自のものじゃないように、私、感じたんですが、詳しいことは聞いてないんですけども、そういったところからももちろんご協力いただいて、やっていくべきものだというふうに思ってますんで、そういった実際具体的なプログラムを組む際には、あるいは全体的な長井小学校第一校舎っていうと2,500平米もありますので、いろんな使い方ができますので、それは地元の意向を踏まえて、よりそれをビジネス展開としてできる、あるいは先駆的なキャリア教育の場として充実させるということで県外からも含めたそういった先進的な取り組みのノウハウを持つてる企業のご協力はいただきたいというふうに思ってます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** いろいろプログラムを開発するソフト会社とかそういったことにたけている企業も参考にしたいというふうなお答えでした。

10月23日ですからきのうですね。東洋経済新報社っていうのがあって、これ地方創生についての記事を書いていたんですね。地方創生を批判的に見ている記事でした。形ばかりの建前計画が全国で出ていると。そこで、地方創生で発生するコンサルタントバブルでは、総合戦略制定や事業計画等にコンサル会社に自治体から怒濤の外注があり、手が足りなくなっている。手

が足りなければ内容も粗末で、地域将来のコンサルタント任せにしちゃいけない。他地域のコピーや基本的知識のない場当たりの計画もあるというふうなことですね。ですから、非常に気をつけなくてはいけないということで、もちろんその辺は市長もわかってると思いますので、そこで、やはりほかに今、市長がおっしゃった以外にもよい計画があれば、耳を大きくして広いお気持ちで取り入れるお気持ちはありますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 五十嵐議員のご質問は、今、私どもで基本的に考えてるキャリア教育とか、あるいは長井の歴史とか文化とかが感じられるようなそういう教育施設以外のことっていうことですか。

これについては、ご提案をいただいたときに検討しなきゃいけないと思いますが、私どもとしては、長井小学校の第一校舎は長井の教育のシンボル、ランドマークだということを前提に、それに沿った考え方をしておりますが、ただ、いろんなご提案をいただいて、これはなるほどというものがございましたら、これ当然検討しなきゃいけないというふうに思います。

なお、議員おっしゃったように、コンサルの会社っていうのは、特に地方創生の総合戦略のときはもう相当な自治体がいろいろ依頼あったと思います。私どもも自分たちだけではできないからというようには思っておりましたけれども、問題はしっかりとオリジナリティーをどうつくるかっていうことを考えないで発注しますと、コンサルティングっていうのは私も小さい、ベンチャーのコンサルで仕事したことあるんですけども、必ずノウハウを持っていますし、そのクライアントっていいですかお客様に合わせた提案をするんですが、その提案が具体的なものがなかったら、やはりパターンで当てはめますんで、そういったコンサルの依頼の仕方は最悪だというふうに思いますし、なおかつ、例えば

CCRCとか、例えば日本版DMOとか、こういう最先端のやつは行政もノウハウを持っておりませんから、当然コンサルにしますけども、コンサル自体もわかんないんですよ、考え方もいろいろありますし。

ですから、やっぱり肝心なのは、地元でどういう意識を持ってどういう理念を持って依頼するかということだと思いますんで、そういったところは重々、議員おっしゃるように気をつけなきゃいけないというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** この第一校舎の問題は、今、公共施設にも絡んでくるということで、今度市庁舎の問題なんですけども、6月議会でタウンセンタービルに1階に食品スーパーが入居することを前提として市役所機能の一部を入居するための補正予算、可決したわけですけども、これ施設建設は後になってタウンセンターの要は白紙となったわけですよ。そこで、この新市庁舎の規模、予算、どれぐらいに見積もっているのか副市長にお尋ねしたいと思います。まあ、大体でいいです。わかる人で、早く早く答えられる人でいいです。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** お答え申し上げます。

現在のところは6,000平米、そして30億円を想定しております。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** こういう公共施設の内部検討のトップが副市長ですからお聞きしたんですね。

6,000平米というのはどのように広さをはじき出したんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** この庁舎としての必要な面積というのは、総務省がある程度の基準を持っております。職員数、そして議員数、あるいは必要な会議室、あるいは書庫等々の平均値でござ

います。これに現在の人数、そして機能を掛け合わせるとこういった数字になります。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 私もいろいろ研究しております、大体職員数が1人に対して25平米、長井市は250ですから、それで掛けて出てくるわけですよ。これには駐車場とかそういうもの含まれてますか、あと土地代。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** まず今申し上げたのは建物本体だけでございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** そうしますと、もし土地を購入するとか駐車場というともう少しふえるってことですよ。

○**渋谷佐輔議長** 遠藤健司副市長。

○**遠藤健司副市長** 市有地を候補地とするのであれば、土地代は発生しません。民間地であれば発生します。ですので、立地する場所でその土地代の発生が決まってきます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** いただいたこの資料の1ページ、これ地域の課題というのがありまして、親子で休日を過ごす場所の少なさ、で、(1)、その下、長井市内には安心して子供を遊ばせる憩いの場が少ない。長井市内には親子で休日を過ごす場所が少ないため、他地域で休日を過ごしてしまうようになって、2ページ目に行きまして、長井小学校事業、課題解決のための事業って、これつながってると思うんですよ。そうしまして、では、第一校舎はこういったことに遊び場的なことにも使うということでしょうか。じゃあ、竹田課長。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

あくまでもこの第一校舎につきましては、今ある学びやの雰囲気を残しながら学びをテーマとした集客施設としてリノベーションしていく

というものでございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 私、公共施設の関係で、やはり人口減少対策、若い世代の子育て支援につきましては、子供たちの遊び、冬でも雨の降る日も遊べるものが先につくったほうがいいんじゃないかというように訴えてまいりました。で、タウンセンターも使用してはいかがかというふうなことも言ってまいりました。

きょう、読売新聞に、人口減、自治体動くというふうな記事がありまして、これ天童のげんキッズ、山形のべにっこひろば、あと東根のタントクルセンターを特集したやつなんですね。で、げんキッズには休日には150人以上、平日でも300から400人が利用すると、約6割が市外からの利用者という。げんキッズの総工費は約14億円、すばらしいですよ、げんキッズね、市長も見られたと思うんですね。ですから、14億円もかけなくても10億円もあれば立派なものができて、子供たちが遊べるということです。これは、市長は今現在ですと市庁舎を優先して、子育てを中心とする複合施設はその次になるべく早くやりたいとおっしゃってるんですが、なるべく早くやっていただきたいと思います。そうしますと、先ほど来、いろいろ病院の問題、あと小学校の管理棟の問題もありまして、やはり財源の問題がありますから、まず市庁舎を建てるにしてもぐっと本体だけで最低見積もっても30億円かかる。これをなるべく低くしたりする努力をするべきだと思うんですね。6,000平米のうち議会関係の占める面積というのはどれぐらいですか、わかる方、お答えください。

○**渋谷佐輔議長** 桐生芳弘公共施設整備課長。

○**桐生芳弘公共施設整備課長** お答えいたします。

先ほど副市長が申しあげました総務省の基準がございまして、それによりますと、議員定数掛ける35平米だったと思いますが、それで計算しますと560平米という数字が出てきますので、

面積を想定する場合にはその数字を使っていると
ころでございます。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** それはこういう議事堂スペースも含めてということですか。

○**渋谷佐輔議長** 桐生芳弘公共施設整備課長。

○**桐生芳弘公共施設整備課長** 議会関係のスペースということでございますので、議場とその他の会議室とか議員控室等も含めた面積というふうになると思います。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 私、この問題が出る前から、市庁舎はどこにでも議会棟というのがあって、議事堂があるわけなんです、一番年間使用する回数は少ない。もちろん、その議事堂っていうのは大事な施設ですけども、なるべく費用を安く建てるには、この議事堂は外にあってもいいんじゃないかと、私、前から思ってたんですよ。

それで、長井小学校の第一校舎、見直したら広いですよ、職員室の。これ、この議事堂として使えないかと、こう思ったんですよ。実は前、タスとか考えたことあるんですけども、そうしますと、教育的施設じゃないじゃないかというふうな話もあるんですが、今、18歳選挙権になったり、あと子供議会をやりましたよね。政治というのは、子供たちに対しても非常に大事な教育の一環であると思うんですが、そして、例えばそういった使用はできないかと考えたんですよ。そうしますと、観光交流センター、来年4月にできますけども、まちなかのぎわうための施設ですよ。なかなか言うはやすしで厳しいと思うんですよ。今、本町の商店街、がらがらになりましたよね。ですから、いろんなことを考えて、もう全国にないようなことを考えないと厳しいかなと思うんですね。とっぴな発想と言ってしまうとだめですというのは簡単ですけども、こういうことも含めてせつかく第

一校舎で大きな金をかける審議をしてるわけですから、いろんな柔軟な発想があつていいと思うんですか、市長、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 五十嵐議員おっしゃることはよくわかります。普通に、例えば長井小学校の第一校舎、キャリア教育、教育施設として整備するには、議会棟を入れるっていうとそれはだめなんですけども、やっぱりいろんな論法だと思ふんですね。論理立ててでございますんで、議員おっしゃるように政治を学ぶというのは日本の場合は余り小学生も中学生も積極的に教えていないわけなんですけども、これは欧米では必ずしもそうでありませんので、そういう意味から考えれば、組み立て次第では使える可能性もあるんじゃないかなと思います。まともにこれ担当課に言えばだめだというふうに言われるでしょうけども、論理立てして、そういう政治も学べると、しかも親子で学べるというような組み立てをすることによってできる可能性もあるかと思ふますので、その辺は使い方については今まさに検討が始まったばかりですので、これを実際施設も今回議案をご承認いただければ、2年にかかるわけですね、耐震、免震、あと大規模改修。その上に、今度使い道によって内装を変えていきますから、実際は3年後ぐらいでございますので、その間にまずいろいろな組み方といひますか、その辺なども研究して、ぜひこれは検討すべきご提言だなというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 今、選挙のたびに投票率が話題になるんですけども、高齢者が投票率高くて、20代、30代の投票率がぐっと低いんですよね。ですから、声の大きい部分が政策取り入れなくちゃいけないで、やはり若者に対する政策が非常にもろくて、少子化の原因にもなってるわけです。ですから、そういった政治、

それから垣根を取り払って、大変いいと思ひますよ。

泡淵創生参事に伺ひますが、今、私この間、参事にご同行いただいて、宮城県のいろいろな施設を見させていただきまして、大変勉強になりました。やはり、おのおの事情が違ふわけですから、自治体としてはね。仙台と長井では違ひますから、ですから私が言ったような、市長が答弁されたことを研究されて、国を動かすようなご提言をするような研究されてみてはいかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 泡淵栄人地方創生参事。

○**泡淵栄人地方創生参事** お答え申し上げます。

いろいろご意見を伺ひながら、先ほどの五十嵐議員のご提案なども非常に参考になると思ひておりますので、議員ほか、あとは市民の方々ですとか、あとはいろいろな方々に意見を聞いて、今後整理をしていきたいと思ひております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 12番、五十嵐智洋議員。

○**12番 五十嵐智洋議員** 市役所の建設費が安くなり、全国で初めての学校を使った議会、議事堂、その話題性とかありますと、費用対効果もありますよね。ですから、こういう大胆な発想で取り組んでいただきたいと思ひます。

もう一点ですが、市長も竹田課長も答弁の際に、内閣府に行ってきたとか、官僚の方と会えたとか、有利なものを紹介してもらった。地方創生というのは、やはり情報をあげますよと、人的支援もしますよと、ですから役所に来なさいと、ちょっと地方分権の逆行してる面もあると思ふんですよね。ですから、自主財源もたっぷり出すわけですから、ぜひ何も地方の事情をよく話して、大胆に取り組まれるように期待しますが、もう一度お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 確かに地方分権とまたちょっと違ふ施策なのかもしれませんが、現実と

しては、やはり我々には自主財源というのはこれ以上与えられてないわけで、これは法律で変えてもらわないと、これできないわけですよ。それには時間もかかりますし、したがって、今何をするかと考えたときに、自前の財源は限られておりますので、やはり少しでも有利なお金を財源を求めるということは今後も努力しなきゃいけないと思っております。

地方創生は、かなり市町村によって温度差あります、一生懸命してるのと余り期待してないところと。額も小さいということもあるんでしょうけども、私としては、長井市の課題解決のためには既存の補助制度というのは使えるものが決まって、なおかつハードについては長井市が一番必要としている道路であったり河川であったり、あと、こういう施設の整備というのは残念ながら今どんどん先細っておりますので、したがって、何も好きこのんで頭を下げて国の職員にたくはくないですよ。でも、それが市民のために、あるいは長井市の問題解決のためにということで、ほかの市町村がしないことをやれば幸いということにやっぱり国の職員、官僚の皆さんというのはそれに応えてくださるので、そういった人間関係をしっかりと築くことによって、長井市のためになればということでこれからも努力したいというふうに思っております。

ぜひ議会の皆様からはいろんな提言をいただいて、これをやれとか、こういったことはどうだということで、我々はそれを受けて内部でどうすれば実現するかと、それはできませんと言うのは簡単ですけどもそれでは何も変わりませんので、どうすれば実現できるかと、制度がなかったら制度をつくっていただくように、地元選出国會議員ももちろんでございますが、国のほうにもいろいろ働きかけて努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくご指導お願いしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** 先ほど教育長のほうから答弁いただいた中で、長井小学校の職員室というものは、本来であれば長井小学校の現場を預かってきた者として何代もの校長さんが言ってきたのは、昇降口が最も適当なところであって、やはり子供たちに目の届くところにつくるべきだったんだという話をされたわけですね、先ほど。このことについてはこの議案と直接関係ないんで非常に申しわけないんですけども、本当に私は正直言って憤りを感じたと。長井小学校の第一校舎に職員室をつくりたいと言ったのは、これ教育委員会なんですよ。そこだけは誤解のないようにしてほしいと。それは私たちがそう認めたんですけども、その前に私が声を大にして、ちょうど昇降口の改装のときだったんです、4,000万円をかけて。そんなことするよりも、職員室と昇降口を改装しなきゃならないというときに、そういう金をするよりも昇降口を一体として職員室にして、管理棟としてされたらいかがですかという提案をしておったんですけども、確かに5億円か6億円かかると。しかしながら、余りにも金額が大き過ぎると、そういうこともあったんでしょうが、そして結果的には3つの案があった中で、私が最もしてはいけない第一校舎に職員室を置くというふうに決定されたのが教育委員会ですよ。私はそのところはしっかりと把握しておっていただきたいなど、そういうふうに思います。

それで、市長にお伺いしたいんですけども、全員協議会、そして文教総務の合同協議会の中で2回、このことについては説明をいただきました。非常に素晴らしい事業だと思いますけれども、物すごく不安も正直あります。やはり保存と利活用という2つがありまして、保存については、それは大方の市民の方がご理解を得ていると思いますけれども、そして要望もしてい

ると思いますけども、利活用についてはまだまだ市民サイドの議論はなされていないし、されてこなかったのじゃないかなと。それは当局のほうで一方的に、一方的ということはないんですけども、こういう利活用をしていきたいというようなことで今提案されておるわけで、このことについては本当に市民にとってベストな選択なんだろうかなというふうに私は少し疑問を感じますけども、本当に絶対間違いのないあそこの利活用なんだという考え方をどのように持っておられるのか、市長にお伺いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 町田議員がおっしゃるように、市民の皆さんがあそこの第一校舎をどういうふうに利活用するかということについては、これからの議論であります。本当に市民が望んでいるのかというのはわかりません。それはまだ問いかけてないからですよ。

なぜじゃあやるんだということなんですが、まず一つは、今回の議案というのは、大変失礼な言い方をすると、まず第一校舎を残すか残さないかということの一つ選択があるというふうに思っています。第一校舎をいわゆる職員室含めた学校の施設としてずっと使ってきたわけですよ。去年の春まで使ってきたわけですけども、耐震調査したらこれはだめだということで、耐震を受けて、じゃあそのまま使おうと思ったんですね。ただいずれは、あそこは適さないの、やっぱり町田議員おっしゃるように昇降口のところに作りたくて私も思っていました。ただし、単独だと。5年ぐらい前までは第二校舎というのは、あれたしか平成13年だか14年に耐震と大規模改修を行ったんですね。そこから20年たったらもう取り壊して新たに建てられるだろうと、その当時の補助制度ではそれはできたというふうに思っています。ですから、さっき教育長も平成33年ごろと。それは20年なんです。第三校

舎は20年はたちませんが、10数年たつてれば大丈夫だろうということで考えておったんですね。ところが、それを新しくするということがもうできない状況になったと。なおかつ、子供が減ってるもんですから、じゃあ職員室もあわせて直そうと思ったら、面積的には大きいのでこれ対象にならないというようなことだったもんですから、いやこれは困ったなということで今いるわけですよ。ただし、これはできるだけ早くしたいと。公共施設整備の計画全体的なものをまとめて、順番は庁舎が1番だとか小学校が1番だとかというのはあんまり思わなくて、できるだけできることから、全部必要ですからどんどん整備していこうと。なおかつ、それは補助事業を使えば一番いいというふうに考えてますね。

今回の議案については、第一校舎を残すということで将来残すために何か整備手法を考えたところ、突然900億円の特別枠が今回出てきたと。これを使うしか文科省の補助制度ではできないということはわかったわけですから、この地方創生の推進交付金を使う唯一のチャンスなのかと思って上程をさせていただいたこととございますので、したがって、校舎を残すということをまず前提にして、そして使い方についてはこれからたたき台を出して、そして市民の皆様から、あるいはさまざまな団体、また議会はもちろんですが、議論させていただいて最終的に決めていこうと。ですから、今は何をやるって決まったものではないと。

ただ、大まかな考え方はありますけれども、これは市民の皆様を考え方次第ではないかなというふうに思っておりますので、そういった意味では町田議員がおっしゃるのはごもっともなんですが、非常に複雑です。長井小学校についてはもうここ五、六年ころころ変わってまして、いや本当に私も大変申しわけないと思っておりますが、しかし、そういうふうな宿題を先輩方は残

されたわけなので、でも私どもの今の時期にそれを何とかしなきゃいけない、そういう判断をせざるを得ない時期に来てますので、ぜひそのところをお酌み取りいただきまして、今後どうするか、あるいは市民にも問いかけるということで今回はお認めいただければ大変ありがたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** やはり構想でありますので、こまいところについてはこれからだと言いなながらも、構想について私たちは賛否を問われるわけですね。そういうときに最終的に判断するのは、やはり市民のためになる事業であるのかと、2万8,000人の全市民の事業になるのかと。特定の部分の市民のためのものではないという判断をしていかないとこれはならないわけで、私は長井小学校というものについては、長井小学校の卒業生でないもんですから、また違った見方というものは今までしてきましたし、何度も小学校を見る機会もありました。しかし、私は皆さんほど深い保存というものについては考えにくいというふうに思ってきましたので、本当に市民の求めるものとは何であるのかというものを問うていただきたいなど。今まで問わなかったと思いますね。漠然と問われれば、それは私だって残したほうがいいでしょうよと、ぜひ残してくださいよという言葉をつきますけれども、本当に市民の皆さんが今まで長井小学校についてはどうしたらいいのかという問いというのは全然なかったと私は思いますよ。

そういう中で今市長がご提案されている、苦慮しながら提案されているというのは非常に敬意を表するわけでありましてけれども、やはり学校エリアの中で今まで学校施設であったものが今度は教育施設として分けていくんだという言葉としての考え方は正しいんですけども、じゃあ現実としてそれを分けていけるのかというこ

とについては、私は甚だ疑問を感じております。同じエリアの中で将来、そして安心・安全な学校教育が果たして担保できるのかということでもありますので、私はこの事業に対しては、本当に地方創生の中ですごく有利な補助事業であるということはわかるんですけども、そんなに急がなくてもいいのではないかなという考え方も同時に持たなくては行けないと、私はそう思ってますので、この長井小学校に残す、あるいはそれを利活用するというものをもっと市民サイドで醸成をした後にこれに取り組んでいくという考え方は持てないかということについて、市長いかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 町田議員おっしゃることもごもっともだと思います。本当に長井小学校の第一校舎というのは、市民の関心はないと思います。ただ、これはもうもたないんだ、取り壊すんだというところで初めて関心が出てくると。議員おっしゃるように今じゃなくてもいいんじゃないかという考え方もあると思いますが、私は素人なんですけども、まず2年使わないだけでかなりそじたなというふうに思いました。よく言われるのは、やっぱりいろいろ聞いてみますと、使ってるとまた特に木造の建物は違うんだそうですけども、そじるんですがそじ方が違うと。全く使わないということになって人が入らないと途端に傷むと。ですから、このまま使わない状況で2年、これが3年、4年、5年となると、いよいよ相当傷んでくると。そうすると、何らかの形でじゃあ使わなくても外観とか手をかけなきゃいけないということは見えておりますし、冬はここ3年か5年に1遍ぐらいは、大した金額じゃないですけども、数百万円とかかけて補修しておったんですけども、これがだんだん大きくなるだろうと。

ですから、やっぱり私としては先送りするのは、次の人がやったほうがいいというのは一番

楽かもしれませんが、ただ一方で、子供たちのキャリア教育って私は非常に重要だと思ってるんですね。若い人たちがここに定着できない、あるいは一旦大学とか短大、専門学校で県外へ行ってしまったら戻ってこない。その根底には、特に我々、我々って私はもう年だからですけれども、ずっとやっぱり勉強して、少しでもいい学校を出て、いい会社に就職すると、それが自分の将来の幸せにつながるというふうなことをずっと思い込まされてきたというか、たたき込まれてきたような、そういった教育の時代に育ったと思ってるんですね。しかし、今は違うと思うんですね。そんなことしたらみんな都会に行ってしまうんですよ。そうじゃなくて、本当に自分の仕事、将来どういう仕事につくべきかということを社会全体を知って、その中で働くことや暮らし、生活はどういうものかということをやっぱしきちんと教えなきゃいけない時代ですけれども、ちょっと長くなって恐縮なんですけど、今あるのは特に中学生で長くて3日、4日ぐらい、ある企業に受け入れていただいてちょっと表面だけ学ぶと。なおかつ、会社側では本当は迷惑なんだろうけども、やっぱり子供のためだということでも教えるんですけども、本当の部分は教えられないわけですよ。ですから、そういったところを教える施設が必要だと思ってるんですね。それが私どもの長井小学校を使って教えられたら最高だと。

なおかつ、先ほど言いましたように、仙台市のあの施設というのは、私行って思ったのは、もうサラリーマンだけです、考えてんのは。中学生の部分も同じでした。だったら農業とか商業、商売する人とか会社をやりたいという人はどうなんだと。そこの部分を教えられるようなものをつくっていかないと、本当にこっちに定着する人間なんていうのは少なくなってしまうと思いますので、そういったものをつくればなんと、そして地方創生のこういうチャンス

を生かしてやればいいのかというふうに庁内で考えて、手を挙げさせていただいて今回上程したということでもありますので、町田議員おっしゃることはごもっともですが、実際市民が関心を持つのは、長井小学校はいよいよだめだから取り壊すと、どうしますかというふうに問いかないと、市民の皆さんは関心を持ってもらえないんだというふうに思います。

なお、昭和24年だったのかな、第三校舎を大規模改修をするときに、教室がなくて第一校舎を一時使ったんですね。数カ月、3カ月ぐらいだったと思うんですが、そのときの子供たちの感想というのはいろいろ寄せられてまして、保護者とかPTAを通じていろいろ聞いてます、すごくよかったと。長井小学校で木造校舎で短い時間でも勉強できたというのは、すごく自分にとって宝だというふうな子供もいらしたようで、PTAも保護者もよかったというような声もありましたので、そんなことも交えながら、私個人としては大変だけど残さんなねなというふうに思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 15番、町田義昭議員。

○**15番 町田義昭議員** キャリア教育が主になってあそこを残そうというふうになっているんだろうと思いますけども、キャリア教育は何も長井小学校第一校舎を使わなくてもどこでもできるというわけですね。それは直結してるんですから、そういう理由づけがなければ意味がないわけで、それはそれでいいんですけども、私は第一校舎を整備して長井の経済の活性化、あるいは教育環境の増幅というかな、そういうものに寄与していくという考え方は非常にすばらしいと思いますけども、じゃあそれでは、それぐらい投資して将来の方々に負担として残ってしまわないかというふうなところも十分に考える必要はあるだろうと、私はそう思います。

本当に長井小学校、100年近いものをこれか

ら100年残そうという計画ですよ。これは本当に大きな計画だと思いますけども、それぐらいの大事なことは少し時間をかけたり慎重さがあるっていいのかなと、そして市民の声も聞いたほうがいいのかなというふうな私の考えであります。それは市長は市長の考えで今やらなければこれからできないであろうと、それもそのとおりなのかもしれません。しかしながら、後世にチャンスを与えるということも一つの方法でもあろうかと、そのように考えておりますけども、その点について市長はいかがですか。後世の人にもやはり何かやっていただく、今、全部市長がやってしまったら後世の人のやるどころがなくなっちゃうんじゃないかなと、そう思うんですけども、その点についていかがですか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 木造の建築物でも、例えば奈良、平安の時代の建物、もう700年、800年残ってるというものもあるわけですよ。それで、やっぱり人がいっぱい集まって何か利用できるという建物の一番肝心な部分は、災害大国日本ですからいつ地震等があるかわからないと。そういったときに対応できる基盤があれば、あとはある程度100年に一遍とか木造の内部の材をかえたり強化することによって多分かなりもつんじゃないかなというふうに推測されます。したがって、今回の工事は中身を変えるというよりも、まずずっと将来もつような基礎的な部分を工事するということがメインになります。したがって、内部の使い方については仮に20年使ってまた使い方変えてもいいでしょうし、あとはキャリア教育とか歴史とか文化とか、そういったことを大切に学ぶ、またそういったものに触れる、そういう建物として使って、5年とか10年でこれはだめだということになれば、そのとき変えればいいだろうと。やっぱり今重要なのは、今のままでいくと3年、5年で壊さなきゃいけない場面が必ず来ると思います。そのときに、

じゃあ今までできるチャンスがあったんだけど何でしなかったんだと、当然、私どもの次の世代という年代じゃないかもしれませんが、言われると思います。

したがって、3年か5年後に判断を迫られるというのがわかっているんだしたら、やっぱり今どうするかということを議論しないとだめなんだと思うんですね。結局今の長井が衰退したのは、20年、30年前にちゃんと手を打っておかなかったということも私はあるんだと思いますよ。ただ、これは私ども長井市の先輩方の責任だけじゃなくて、国も悪いわけですよ。国が悪いのかもしれないです。こういう国にしまったから若い人たちが定着しないような国になったわけですね、地方に。議論が違いますが、申しわけございません。

そういった意味で、議員もおっしゃることはよくわかりますが、確かに次の世代に任せるということも重要だと思いますが、基本的に免震、耐震の工事、たしか3億5,000万円、一般財源でありますけど、考えてみると15年で大体返すんですよ。年間2,300万円ぐらいです、負担は。15年で3億5,000万円とか6,000万円負担になりますけども。ですから、そういうふうに考えると、今やるのが私は一番ベターなのではないのかなというふうに考えておりますので、そのところはぜひご理解いただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** ほかにご質疑ございませんか。

1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 最初に教育長に伺います。長井小学校の第一校舎が貴重な建物だという根拠は持ち合わせておりますか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 今の宇津木議員のご質問にお答えさせていただきます。

貴重な建物であるという根拠といたしましては、本日配付させていただきました資料の3でございます。資料の3には、神奈川大学建築史

研究室の西 和夫先生による平成18年の調査結果が示されてございます。この西先生の資料をもとに、所見をもとにしながら、歴史的な建造物ということで文化庁のほうから認定をいただいたというふうに考えております。

- 渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。
- 1番 宇津木正紀議員** これは国の登録文化財に登録するための資料というふうに私は理解しました。国の登録文化財って全国で幾らあるかご存じでしょうか。
- 渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。
- 平田 裕教育長** 大変恥ずかしいんですが、存じ上げておりません。
- 渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。
- 1番 宇津木正紀議員** 私も最新の数字は持ち合わせていませんが、長井市だけでも相当あるということで、恐らく全国的には登録文化財というのは相当な数じゃないかというふうに理解できるのじゃないかと。ちょっと私も勉強不足で数はわかりませんが、教育長か誰か。川村文化生涯学習課長からお願いします。
- 渋谷佐輔議長** 川村直人文化生涯学習課長。
- 川村直人文化生涯学習課長** 私どもの持つてる資料からしますと、全国で1万件以上の登録になってるというふうに理解をしております。
- 渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。
- 1番 宇津木正紀議員** 全国に1万件以上あるということで、それが貴重かどうかというのが見方だと思うんですね。例えば丸大扇屋の母屋みたいに県の文化財というような指定があればこれは非常に貴重な文化財だということが理解できますが、国の登録文化財が万以上あるということで、果たしてどこまで貴重なのかというのが文章で書くのは簡単だと思うんです。西先生というのは立派な建築学の大御所だった方ですから、それは貴重な文化財だということは書くと思います。貴重ではないですから、貴重の中でもどんな感じで貴重だかというのが、こ

れでは説得力が弱いのかなと思います。本当に貴重であれば、まず県の文化財から登録になっていくんですが、そういう準備はしておりますか、教育長。

- 渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。
- 平田 裕教育長** 県の登録文化財ということについての準備はいたしておりません。
- 渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。
- 1番 宇津木正紀議員** 県の登録の準備もまだなされてない貴重な文化財であるということで、わかりました。
先ほどの議論の中で教育長にもう少しお聞きしたいんですが、教育委員会では最初は平成21年に検討委員会をして、まず学校として使うと、将来文化財として活用するんだという方針を出したと。ところが、今回は文化財というよりも集客施設として整備をするのだと。教育長は、将来文化財と活用というのが早くなったと答弁してるんですが、集客施設として、教育委員会が言ってる文化財としての活用よりもむしろ集客してまちのにぎわいを多くするんだということなんですが、教育委員会では集客施設として長井小学校を活用するということを教育委員会の会議の中で承知しておりますか。
- 渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。
- 平田 裕教育長** 具体的にどういうふうに活用するということまでは、教育委員会内部では話まだなってないかと思います。ただ、先ほど申し上げたような経緯で、国の補助が得られないために学校として使うことは断念しますということについての報告、そして承諾をいただいたということでございます。
- 渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。
- 1番 宇津木正紀議員** 外部の方が小学校の敷地、第一校舎に入って集客施設として活用するんだということは、まだ教育委員会では議論されてないというふうに理解でよろしいでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 正式にそのことについて議論したという記録は見当たらなかったのですが、9月の教育委員会の定例会のほうで今後どういうふうに活用していく可能性があるかということについて、一部そういう集客施設として例えばちょっとコーヒーが飲めるようなコーナーであったり、そういうこともできるだろうというような話は教育委員会の中ではしてございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** そのとき教育委員の方の反応というか、それはいいことだとか、私6月議会で申し上げて、教育長はまだいっしょで、子供の安全性をどう担保するか、確保するかということが課題ではないかということで6月議会で質問しております。それは教育委員会でその後にそういう議論をされてきたのかということ伺いたいんですが、教育長お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 子供たちの安全等につきましては当然話題にはなっておりますが、教育委員会の定例会の中で確認した事項としましては、今後学校教育施設からは切り離し、教育文化的な施設としてまた新たにそれを保存活用していくという方向性でございまして、さらにそれに伴う、先ほど学校教育課長が答弁しましたけれども、子供たちの安全確保についても、これはしっかりやっていかなきゃいけないということは話題になりました。ただ、その具体的な方法について、動線をどういうふうに子供たちと交わらないようにしていくのかといったあたりについては、まだまだ今後検討していかなきゃいけないという話になってございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** それでは、教育委員会では学校施設から生涯学習施設というふうにな

る予定だということはわかっているんだけど、安全対策についてはこれから考えていかなきゃいけないという、そういう段階だというふうに理解しましたが、それで教育委員会としてはこれから対策を一緒に考えていくという、そういう理解でよろしいのでしょうかね。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** ただ、委員会の事務局内部ではそこは大分話をしております、先ほど申し上げたとおり子供たちの動線、登下校、それから中での活動と、それから県外からのお客さんも当然いっしょだろうというふうに推測されますので、そこの動線がまず交わらないようにしよう。そして、もう一つは子供たちの教育活動、例えばトリムマラソンというような話ありましたが、ちょうど校舎の周りぐるぐると走って子供たちが体力づくりで活用してるんですが、その教育活動も制限されないように、こっちに一方でそういう学校とは違った教育文化施設ができたんだけど、その前通れないから、じゃあトリムコースもうできなくなっちゃうのかなということについては、これは学校のほうには教育活動を制限させるようなことはしたくないんです。その両立をいかに図るかというので、今すごく内部で検討してる段階です。

一部のこれまで出たいろんな意見の中の一つとしては、当然柵を設けて、その柵は教員があげられるようにしておく。あけながら、トリムコースで走るときにはそれを監視といいますか、途中で立ちながら学年でそういうトリムコースの活動をしていこうと。それから、もう一方で、せっかく長井に来てくださった方と、さっき学校教育課長が申し上げたとおり、何かもっと触れ合いながら社会性を伸ばす。長井ってどういうまちなのと聞かれたときに子供たちがきちんと答えられる、どういうところが見どころなのと言われたときに子供たちが答えられる、それも教育の一環だねと。ただ、その両立はなかなか

か難しいなということで、そんなことで今議論をしてる段階で、それを原案として教育委員会に提示して、教育委員会でこういうのがいいねというふうにするのはこれからだというふうに考えてございます。

○**渋谷佐輔議長** ここで暫時休憩します。再開は、午後3時20分といたします。

午後 3時04分 休憩

午後 3時20分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を続行いたします。

宇津木議員の質問。

1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 先ほどの教育長の答弁で、事務方のほうでこれから子供たちの安全性をどれが一番いいのかどうか検討して、教育委員のほうに考え方を整理して提案していきたいというような答弁というふうに理解しました。

次にですが、6月議会に渡部議員が長井小学校の第一校舎の使い方について質問したに対して、内谷市長がどういう使い方をするかということをやまずみんなで議論して、みんなの意見を踏まえた上で使い方を考えてから免震工事ということになるんだろうと思っております。私の質問に対しても、どういうふうに子供たちに危険が及ばないように、また市民も活用できるようにいろいろ検討させていただいて皆様からご意見をいただくようにしたいというふうな答弁だったんですが、地方創生拠点整備交付金というのが8月に900億円が出てきて、それで今回がチャンスだということで市長が今回提案したということは、そこは理解できます。

もう一点、急に老朽化が進んでいるというふうなお話をされたわけですが、6月では市長が

どう答弁しているかということ、将来的には危険になりますから、周りに近づかないようにして、あのままにして外見だけで見てもらうというようなことになってしまうんだろうと思っております。ということの答弁だったんですが、今回何か急に老朽化が進んだように受け取るんですが、何かその間、6月議会から今回までで何か市長の見る目が変わったように思うんですが、そこらはどうしてなのでしょう。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 急に変わったんじゃないかということですが、一つは、将来的にというのは私も10年ぐらいかなというふうに思っていたんですが、改めてこの間しみじみと見てみたら、何か前と違うなって、これは自分の感覚です。そういう感じがしまして、設計士さんのほうに、地元の設計士さんに聞いたら、すごく傷んだぞと、本当に5年ぐらいでやっぱり相当傷んでしまうということを知ったもんですから、ちょっとそこでニュアンスが違ったのかと思いますが、私は素人ですから、先ほど言いましたように。でも、宇津木議員はそう思わなかったかどうかですが、私は傷んだと思いました。随分色あせたような感じするんですね。中はよく入って隅々まで見たわけじゃないので、これはあくまでも自分の感覚でありますので、具体的には設計士さんのお話を聞いて、改めてこれのんびりもしてられないのかなと。

例えば今回お認めいただいたとしても、やっぱり実際工事まで終わるまでは一、二年さらにかかるわけですし、実際使うまでは3年ぐらいかかりますので、やはりチャンスだなというふうに感じて今回ご提案したということでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 地元の設計士さんの見方が急に老朽化が進んでるよというふうなご意見だったということですが、それは正式な見方

というふうにして捉えていいのか、それとも単なる見解。というのは、我々議論していくに、どのように老朽化進んでるかというところがやっぱりポイントかなというふうに私は思うんですが、このままにしたらどのくらいで壊れてしまうというふうなことまではまだ踏み込んでないのかなと思うんですが、改修始まればそんな必要なくなるわけですが、もししなかった場合、どの程度の危険というのが差し迫ってるのかというのが客観的に知りたいなと思ったものですかから聞いたところですが、先ほどの市長の答弁以上のものあればですが、その辺もう少し詳しくお願いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** やっぱり正式に依頼しないとそういう見解というのは出てこないかもしれませんが、段階的に考えなきゃいけないと思います。まずは、今の状況のままです。入れるのが何年か。あとは、子供たちに何メートル以内に近寄るな、立入禁止ということで塀とかバリケードつくって近寄るなというふうにするのが何年後なのか。そして、本当に傷んできて崩れかけるのが何年後だということで、これはあくまでも推計ですから誤差はもちろんあるんでしょうけども、一つ言えることは、いろいろ考えれば、瓦なものですから非常に重いですよ。この間の鈴木建築設計事務所さんがいろいろ設計を耐震の6億2,000万円の設計されたときも、相当基礎の部分は腐食してるとか、見えない部分で相当部材も傷んでるかということが、なおできないとなると気になって、非常にそういった意味ではできるだけ早くやるんだったら整備したほうがいいなというふうに思っていました。

したがって、それ以上のものはないんですが、もし例えば今回少し継続してみるということになるんだとすれば、今後どうするかということはいずれにしろ方針を出さなきゃいけないというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 第一校舎は市有物件なわけで、保険入ってると思うんです。最近、雪害なんかで、市有物件の保険を利用して修繕したという例はあるのでしょうか。教育参事かな。

○**渋谷佐輔議長** 横山賢一教育参事。

○**横山賢一教育参事** お答えいたします。

手元に詳しい資料等はありませんので私の記憶であります。たしか平成25年度とか平成24年度、大雪だったというような時代もありまして、その際、瓦が大分落ちたというようなことで、260万円とか数百万円使って補修したというような経過がございます。その際、たしか保険を適用させていただきながら一部補填したというふうに記憶しております。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 瓦は雪が多ければ一緒に落ちてしまうという例は過去にもあったと思うんですが、特に老朽化が進んだからというふうなことではないのかなというふうに思います。本当に老朽化が進めば軒がやられて、そこからどんどん壊れていくということですが、瓦程度だということはわかりました。

次に、10月14日の資料でいただいた中で、11ページのほうに端的に一般財源が3億5,500万円だということと記載されてて、補助金が1億8,000万円と。これが目安の3倍。実は国の補助金の目安が6,000万円と、その3倍を見込んでるんだということの説明だったんですが、あれ以降、動きがあったのでしょうか。竹田課長からお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

10月14日の日にご説明申し上げましたが、その後、今月末、10月30日に東北ブロックの相談会がございますので、そのときにまずは相談をしていきたいということがまず第1点目と、あと、以前内閣官房、内閣のほうに伺ったときに、

担当参事官の方とも意見交換しておりますので、31日に向けまして今資料作成中、もうちょっとこまめ事務的な資料作成中ですので、そちらのほうで直接メールでもやりとりするということで今進めてるところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** もし6,000万円しかもらえなかった場合、一般財源が1億2,000万円ふえて4億7,500万円ということもこの14日に説明受けたんですが、4億7,500万円と、もし仮にですが、あと先ほど寄附金で5,000万円ということで、市長からはたしか10年前の平成18年だったかなと思うんですが民間都市開発推進機構等の3,000万円の補助金をもらうために長井商工会議所の横澤会頭が相当皆さんに協力をお願いして、商工会議所の会員が多かったかなと思うんですが、2,400万円ということで、あと会頭が600万円だったかということで、5,000万円も集まらなければまた一般財源がふえてしまうのかなという心配があります。

地方創生交付金、ソフト事業中心のほうは2億円のうち一般財源が6,000万円ということで、大変補助事業としては優良な事業だと思うんですが、この6,000万円を足せば4億7,500万円、仮に寄附金が5,000万円集まったとしても6,000万円しかもらえなかったら4億7,500万円の一般財源プラス6,000万円の一般財源ということで、長井小学校の第一校舎が走り出すまでに最低4億1,000万円、下手すると5億3,000万円、寄附金が集まらないとさらに多くなるということで、本当に今回、財源的にほかの事業を圧迫しないかというのがちょっと心配なんです。

ことしの3月の一般財源が5億5,800万円で負担が多過ぎるというふうな話だったんですが、それと匹敵するような一般財源の負担になるおそれがあるのじゃないかというふうに心配されます。そこらは市長、どういうふうにお考えでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 宇津木議員おっしゃるように、どうなるかちょっと不安定な材料が多過ぎるというご指摘はごもっともでございます。そのうち、まずは寄附金につきましては5,000万円は確保したいと。先ほど言いましたように5,000万円が集まらないときは、これはぜひ心のまちづくり基金、現在も8,000万幾らあるわけですから、そのうちから幾らか充当させていただきたいと。これは心のまちづくり基金にかなった使い方だと私自身、庁内でも思っておりますので、これで5,000万円は確保できると思っております。

それから、一般財源ということなんですが、一般財源というと今年度から現金で払わなきゃいけないような感じを受けますけども、基本的には起債でやりますので、これは15年とかにわたってそれなりの負担は確かにふえますけれども、それでも第一校舎を残すということが重要だということであれば、以前の文科省の補助金から比べますと額は明らかに多いわけですから、これは3月の時点で、来年の3月ですけども、大体財源的なところも内訳がしっかり出てくるわけですから、その際にもう一回判断いただくこともあるのかなと。ただし、その際には、やっぱりこれは補助金としてやめるということですから返還をいたす、返還といいますか、受けないこととなりますので、したがって、第一校舎のプロジェクトそのもの自体諦めざるを得ないだろうなというふうに思っておりますので、そういった意味では積極的に国のほうに働きかけて、少しでも多くの支援をいただくように努力してまいりたいと。あとは、やっぱりどうなるか、今の時点でもしもこうなったらどうだと言われても、ちょっとそここのところはやはり明らかになった時点でもう一度皆様からご意見をいただいて判断しなきゃいけないというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 心配されるのは、公共事業施設整備計画に悪影響を及ぼすんじゃないかということが心配されます。14年間で111億円という額に今回の増してる分ですね、かかり増ししてる分を含めると113億円になってしまうんでないかという、全体事業費が113億円ぐらいになってしまうんでないかということで、市民の要望が多い、例えば先ほど市長は長井の文化団体から長井小学校のギャラリーを充実するという話もあったんですが、文化団体のほうの要望で一番今強いのは、市民文化会館を何とか文化の拠点として整備してほしい、要望としては改築の要望書が出てるかと思うんですが、教育委員会に出てるんじゃないかと当局に出てるのかな。その辺の本当に市民の要望が多いのが、こちらのほうが要望書として多分出てると思うんですが、そういう点を市長、どう考えていらっしゃるでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 宇津木議員おっしゃるとおりですけれども、27年の3月にいただいた要望書では新築で、大体50億円ぐらい想定できるんですが、それをお願いしたいというご要望を要望書として正式にいただきました。その際には、付記としてこれは新築とか改築のするということに限ったことでないと、財源的なところから耐震化、あるいは大規模改修でもやむなしというようなことを付記でも、あと口頭でもいただきました。

確かにいろんな文化団体から、例えば公共施設整備のためのパブリックコメントなどにも例えば複合施設、今度計画してるわけですけれども、この中に展示会、展示館、展示施設ですね、それから美術館的なものということもございました。あと一方で、文教の杜のほうにも同じような要望いただてるんですね。これもしっかりとした要望書ということで、提言ですよ。実は文化会館と公共複合施設と、それから文教の

杜の整備、みんなダブってまして、今度文化会館については来年、耐震の調査とあわせて実施設計を組むと。もう私どもの中では新築、改築はできないので、50億円ではとてもとても終わらないと思います。南陽市の話も大変恐縮でございますが、最初50億円が、45億円ぐらいでしたか最初、70億円になってるわけですから、ですからそういった意味でいえばやっぱり大規模改修。ただ、その際に文化会館にどういう機能を持たせるかと。やはり今までどおりいろんな会合、会議したり、あるいは芸術祭を含めてあそこの中で展示会もするんだということで今までどおりのやり方でいくのか、あとは例えば文教の杜なんかも、特に今回、長井文化回廊ということで宮・小桜街区の方、あそこを中心として、今度エリアをもっとあら町まで広げてまちなか歩きとか、あるいは芸術文化のいろんな催し物やってるということから、その辺の考え方を教育委員会のほうにはぜひそういった団体の皆様に何度かお集まりいただいて意見を集約してくださいと、皆さんそれぞれ考え方が違うのでこれは大変だということをお話ししてますので、その辺なども踏まえて整備をしていかなきゃいけないと考えてるところです。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 文化会館だけでなく、文化団体からは小桜館とかそういうところの整備で市民の文化活動の拠点にしてほしいという話が出てると。長井小学校は、市長ちらっとさっきお話ししたんですが、文化施設としての要望というのは書面で出てるものあるんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 現在のところ、長井小学校の第一校舎を使っているいろんな市民の憩いの場ということの構想は今策定中なものですから、オープンにしてないということから口頭でのこういったことどうだという提言、アイデアはいただ

いてますが、文面等による要望はいただいてご
ざいませぬ。その中に私が先ほど申し上げまし
たような展示施設とかミニ美術館的なものとか、
あとは特にかわまちづくり推進協議会のほうか
らあります舟運文化をきちっと、何でしょうか、
伝えるような展示施設がないということが、そ
ういったことの要望はございましたので、それ
を長井小学校の第一校舎でというような考え方
もあるのかなということで申し上げたところで
ございます。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** いただいた資料の10ペ
ージに、対話型市場調査をこれからするんだと
いうことで三菱総研がプロポーザルで合格した
ということで、これはあと29年度に市民との合
意形成がやるんだということで説明をいただ
いたわけですが、先ほどの話で、まず第一校舎の
工事を29年度、28年度から繰り越しというこ
とは28年で補正をかけて、それで29年度にする
んだということでありますが、28年度の市場調査、
ワークショップで三菱総研がまとめて報告いた
だく期限っていつになってるのでしょうか。竹田
課長でしょうか、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

可能性調査の委託期間が平成29年の3月24日
までになっておりますので、それまでには報告
書をいただくことになっております。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** それを見ながら、例え
ば28年度の補正3億6,000万円、議会にその結
果示される前に補正案って出てくるというふう
に理解してしまうんですが、市場調査の結果と
いうのが、やはり本当にこれから進める上で、
可能性とかどういふふうな事業するかという
ところの部分で後になってしまうというふうな
ことかなというふうなことで、それもどうなん
だろうかというふうなちょっと疑念があります。

その辺、竹田課長はどのようにお考えでしょ
うか。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** お答えいたします。

今回の地方創生拠点整備交付金で、3月に28
年度として予算化をして29年度に繰り越す
お示しして3億6,600万円と30年度予定し
てる4億1,000万円程度につきましては、さ
きにも説明させていただきましたが、1階部分
については原状復旧をしていきたいと、新し
くするというよりも原状復旧と。2階の教室
部分につきましては、いわゆる内装工事をせ
ずに、そういった可能性、調査を受けて業
者がこういったものに使いたいというもの
の内装工事は30年度以降に、30年度とい
うか、30年度も含めましてやっ
ていくということで計画をしております。

それで、基本的には登録有形文化財でも
ございませぬし、今の木造の学びやの雰
囲気をとにかく残していきたいという
ものが第一のコンセプトでござい
ますので、三菱総研に委託しました
調査によって例えば木造校舎やめて
しまっ
て鉄筋コンクリートじゃないと
できないよという調査結果には
ならないというふうには
考えて
おりますので、特に今回の調査と
後ほどの建設工事がいわゆる
そごが出てくるということは
想定はしてございませぬ。以上
でございませぬ。

(「外観のことを言ってますので、
使い方がそこである程度で
るんじゃないか、市民の意見が
そうすると、その部分にも
う補正の予算上げられ
っから判断しにくいとい
うことをおっしゃ
てるんで」の声あり)

○**渋谷佐輔議長** 答弁できますか。

竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** ちょっと済みませ
ぬ、私のほうで不適切な発言
がありましたので、訂正
します。

三菱総研に調査事業を
発注してございませぬが、
そこで市民の皆様方等から
こういったものでと

いうことを受けまして、その結果は当然……。

(「それは29年度」の声あり)

○竹田利弘総合政策課長 29年度。ですので、それ以降に例えば内装工事等で対応できるというふうに想定しておりますので、特に調査と実際の工事についてはそごが生じないと想定しております。以上でございます。

○渋谷佐輔議長 1番、宇津木正紀議員。

○1番 宇津木正紀議員 そういうことですか。

最後になりますが、管理棟を含めると、管理棟の部分、一般財源、起債になると思うんですが、管理棟6億円。最初管理棟の話も、きょうの最初の話では4億円から5億円と。6月には5億円か6億円というふうな数字出てました。あと、きょう公共施設整備計画では6億円見込んでんだということで、6億円が計画の中ではあるということで、6億円と見ると、これほぼ起債するとしても一般財源ほとんどであろうとすれば、最低10億円、一般財源の持ち出しが10億円、下手すると11億3,000万円。そうですね、11億3,000万円。こんなにハードにかけて、本当に大事な子供たちが必要とするソフト事業ができなくなってしまうんでないかというふうなことも心配されます。教育のシンボルであるから金をかけようという考えもあるかと思うんですが、やはり子供たちにとって何が一番必要なのかと。子供たちに第一校舎と管理棟を残して11億円、下手すると10億円から11億円かけて、それが子供たちのためになるんだらうかというふうな、どうも納得いかないところがあります。

一番お金としてかからないのは、やっぱり最初に教育委員会で示した第一校舎に職員室と校長室と事務室を置いて、そして職員会議は体育館の会議室でしてるそうですから、職員室のスペースは要らないのかと。第一校舎を登録有形文化財から外して、思い切って使うところだけ耐震化するという方法が一番金がかからないのでないかと思います。第二校舎から第一校舎渡

って玄関スペースと、あと校長室、事務室、職員室だけを守るといような工事が一番お金がかからないし、最初に教育委員会が求めた姿、第一校舎に入るんだという姿でできるのかなと思うんですが、それだったら一番お金がかからないで形としては残せるのではないかというふうに思うんですが、市長の考え方を伺います。

○渋谷佐輔議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 確にお金をかけないでやるというのは大切だと思いますが、それは市役所にお金をかけないほうがいいと思います。私は、それでしたら市役所の庁舎をもっと違う形にする、もう仮設でもいいと。ただ、7カ所に分散してますから1カ所にまとめる、あるいは先ほど五十嵐議員からもありましたように議会棟の部分はどこかで使うとかそういうふうにして、やっぱり長井小学校の管理棟はぜひこれしたいです。

あと、第一校舎については、ここの中の議論でやってますんで余り聞かないんですけども、本当に取り壊していいのかと、相当後で何であるとき取り壊したんだと。今、全国で古い建物がどんどんなくなって、それに対する反省といますか、批判がすごく大きいと。確かにいろいろな建築の設計士の方だけじゃなくて大工様から聞くと、あそこの施設は特に技術的にすごい最新のものだとか、すごいというものではないらしいです。ただし、あのぐらいの建物は無いんですよ、どこ探しても。私の知る範囲ですけれども。ですから、そういった意味でいえば、あそこはあそこで残したいと。ただ、そのときに将来公共施設整備でこんなところにお金をかけられないからというのでは、やっぱりそれは違うんだらうと。それでしたら、市役所は市民の皆さんがご不便を感じないように、そして職員もある程度は労働条件いいところで働けるということで、そこで例えば30億円、40億円見てたはずですから、そこんところを10億円削

減すればいいだけのことで、そういうふうにはすべきだと思います。

宇津木議員おっしゃることもわかりますが、あとは整備手法、ここについては整備手法は補助しかないと思ってますから、学校の敷地内なので民間のいろんな投資を仰ぐなんていうことはすべきじゃないというふうに思ってますので、したがって、ほかの部分で、文化会館もあの建物を生かす場合は現状を生かしてと。ただ、唯一と言っていいほどできるのは役所と、あと複合施設も民間でやっていただくところは民間でやっていただくような手法を現にいろんなところでやってるわけですね、市町村も。この近くですと、オガールプロジェクトに象徴されるようにうまくやってるところもあるわけですから、そういったことでそちらの学校施設、教育施設以外の部分で節約してやったほうがいいのかなと。

ただし、第一校舎については確かにお金がかかりますんで、これはやめるという判断もあるかもしれません。ただし、私はやっぱりこれは残すということでずっときた建物を私が最初からやめると、取り壊すと、やがて解体するというような判断は今の時点でちょっとできなかったもんですから、まずはこういう交付金を使って整備する。

問題は、いわゆる集客の施設という考え方はしてないんですね。一つは子供たちの教育でちょっと今の施設では足りない部分をあの第一校舎を使って基本的にやるということで考えてますんで、宇津木議員おっしゃるとおりなんですけども、ここのところはほかの公共施設整備の部分で10億円だったら10億円を何とか節約するように、後に整備するやつが一番どんどんしわ寄せ来るわけなんですけども、そうしていかざるを得ないのかなと考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 1番、宇津木正紀議員。

○**1番 宇津木正紀議員** 子供たちのキャリア教

育ということで、市内の小・中学生はそんなにいないわけですので、恐らく市外とか県外とか、そういう子供たちの利用割合が相当多いのかなというふうに思います。

仙台のキャリア教育するところの維持費が賃貸で4,000万円でランニングコストが4,000万円ということで、規模が違うから一緒にできないんですが、それぐらいの半分ぐらいとしても2,000万円ぐらいとしても、本当に事業者がその辺もうけられて、市の持ち出しがないという形にできるかどうかというのは、それもちょっと不安だなというふうに思います。その辺は市長はさっき自信を持って大丈夫だというようなことを言ってましたんで同じことを聞きませんが、仙台の場合はそういうようなことだったということで質問を終わります。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** 私は、先人が残した公共的建造物はやはり後世に残すべきだと、それが我々の使命だと思います。そういった立場で二、三ご質問申し上げたいと思います。

先ほどほかの団体から残していただきたいとの要望がなかったというような答弁ありましたが、今年度の文化財保護協会の総会に川村課長も出席したと思いますが、その場の総会の決議でも第一校舎を残すべきだというような総会の結論が出たと思いますが、なお川村課長から、その辺の中身についてご質問します。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人文化生涯学習課長。

○**川村直人文化生涯学習課長** 今、浅野議員からございましたように、文化財保護協会の総会、小桜館で行われた際に、個人の方なのでお名前は特定いたしません、長井小学校第一校舎については保存の方向で取り扱ってほしいというようなご要望がございました。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** それから、国庫補助金1

億8,300万円を見込まれておりますが、先ほど来なかなか不確定な額だというふうな議論でございますが、私はこの補助金申請の前に担当官といろいろ詰めた結果、1億8,300万円を示されたもんだと思ってます。はっきり認められたということはなかなか言いづらいと思いますが、補助金申請をする段階で額を示されるというのは、非常にこれは自信のある額でないかと思っておりますが、市長もトップセールスで確保することを目指していきたいというふうに言ってますが、その辺の見込みについて、なお市長からご答弁をお願いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 確かに数字としてあらわした以上はやっぱり責任を持たなきゃいけないということで、今の段階で担当官のほうから具体的な数字が示されているわけではないということではございますが、これに合うように、同じような額を確保できるように努力してまいりたいと。努力が足りなかったときはまたおわびをしながら、再度今後も財源的なところは議会のほうにお示ししながら、そこでまたご判断を仰ぐということになるかと思っておりますので、私も今後とも担当と一緒に頑張りたいというふうに思っておりますので、よろしくご理解賜りたいと思えます。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** 最後にですが、第一校舎の使い道で、来年の4月に発足します観光交流センター川のみなと長井、舟運文化の歴史コーナー、文化コーナーを設けていきたいというようなお話あったんですが、スペース的にはそんなに充実したものはできないんじゃないかと思っております。その補完施設として第一校舎を活用すべきだというふうに私は思っていますが、その辺の考え方、市長お伺いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 観光交流センターにつきまして

は、国土交通省の補助事業で私ども行政が事業主体になっておりますから、収益を、利益を上げることが前提にこの施設はつくれなかったと。したがって、いろんな機能がございしますが、やはりある程度市民の皆様の大変ご期待があるし、まずは指定管理料も頂戴してありますが、これはいずれ指定管理料は限りなくゼロにしなきゃいけないと。そんなことから、あそこのスペースも常時展示施設として置くのではなく、催事等で長井を理解いただくようなスペース、通常は併用という形で例えば無料休憩コーナーと観光案内と、同時にそこで飲食などもできる、そういったスペースになるのかなというふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** ほかに質疑はございませんか。
(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ほかに質疑もないので、質疑を終結いたします。

それでは、討論を行います。

ご意見ございませんか。

8番、今泉春江議員。登壇してください。

(8番今泉春江議員登壇)

○**8番 今泉春江議員** 日本共産党の今泉春江でございます。賛成のご意見を申し上げたいと思えます。

多くのご意見が出まして、貴重なご意見としてお聞きいたしました。そのご意見も踏まえて、賛成のご意見を申し上げたいと思えます。

本日配付されました要望書にあるように、今までも保存に向けて歴代の校長やPTAからの要望がずっとあり、保存されてまいりました。西和夫さんの所見にもあるように、現存する木造校舎は全国的に見ても非常に少ないと、貴重な存在であると述べております。

長井小学校は、歴史的にも文化的にも貴重な建物でございます。長井小が今まで長い間、多くの方に大切に守られ保存されてきました。引き続き保存するのが私たちの役目ではないかと

強く感じております。

過日、21日の日に、長井市文化財保護協会でご約30人の方々が長井小を見学いたしました。皆様、時間をたっぷりとりまして、その後、皆様から、改めて長井小学校の価値を再認識し、保存すべきだと、また保存に向けての要望書も出したいたいの話がありました。

また、観光交流センターも来年の4月に開業となり、長井小は観光としても重要な価値があるものと思っております。

長井小は市民の宝、長井市の宝であり、未来の子供たちにもこの宝を残すこと、重要と思えます。保存だけではなく、市民の文化施設として活用していただきたいと考えております。

6月議会に、学校施設ではなく教育文化施設としていくという方向性を示されております。そのためにも、今回の予算は必要と考えます。

しかし、管理棟の問題や生徒の安全など、問題もあります。そのことも早く方向性を示しつつ進めていくべきだと思います。

以上、賛成の意見といたします。

○**渋谷佐輔議長** ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ほかにご意見もないので、討論を終結し、採決いたします。

議案第75号は、原案のとおり決するに賛成の議員の起立を求めます。

(起立多数)

○**渋谷佐輔議長** 起立多数であります。

よって、議案第75号は、原案のとおり決定いたしました。

最後に、お諮りいたします。

本臨時会において議決されました議案の中で、条項、字句、数字、その他整理を要するものについては、会議規則第43条の規定により、その整理を議長に一任願いたいと思っておりますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○**渋谷佐輔議長** ご異議なしと認めます。

よって、整理を要するものについては、その整理を議長に一任することに決定いたしました。

閉 会

○**渋谷佐輔議長** これをもって平成28年第4回長井市議会臨時会を閉会いたします。ご協力まことにありがとうございました。

午後 4時08分 閉会

会議録署名議員

議 長 渋谷 佐 輔

13 番 蒲 生 光 男

14 番 安 部 隆

15 番 町 田 義 昭